

2023 年度事業報告書

(1) 模擬 G7 サミット 2022 ～環境教育。今中高生の私たちが提案できること～

Model G7 Summit 2022 ENVIRONMENTAL EDUCATION

令和元年度より、文部科学省は、Society5.0 時代に向けて、イノベーティブなグローバル人材を育成する事を目的とし、高等学校と国内外の大学・企業・国際機関等と協働し、高校生国際会議の開催等、高校生へ高度な学びを提供するネットワークの形成を目指す WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築事業を実施しています。Model G7 Summit 2022 は、本事業の一環として、その拠点校である渋谷教育学園渋谷中学高等学校が オンラインで実施する「学びのオリンピック SOLA(Shibuya Olympiad of Liberal Arts)2022」の一種目として開催されました。

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

後援：(公財)日本ユニセフ協会、Knovva Academy

協力：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト

趣旨：①グローバルリーダーにとって必要なスキルを育成するための実践練習の場を提供する。
②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。
③様々なバックグラウンドを持つ中高生が同じ社会問題に対して向き合い、具体的な解決案を共有することで、各人が自らの学校やコミュニティで行動を起こす動機付けとする。

内容：議題を「環境についての教育不足の中、中高生が提示する解決策とは何か」とし、具体的には、環境についての教育が行われていないために持続的な活動が行われないことを問題として提示する。誰もが自覚を持って環境問題に取り組む社会を作るために、教育や学校においてどのような工夫ができるのか。また、中高生である自分たちが、問題解決に向けてどのようなアクションを起こせるのかを考える。

日時：2022年8月18日(木)9:30～16:00 JST

場所：オンライン

手段：Zoom, SLACK(連絡用)

参加条件：中学生または高校生であること

参加費用：無料

当日のスケジュール：

9:30 受付 (Zoom での入室開始)

10:00 開会の辞 オープニングスピーチ：Ms. Patricia Lozada (Head of Model G20 Summit)

10:20 運営によるプレゼンテーション

10:40 基調講演/Key note speech Ms. Amanda Victoria (ブラジルで環境教育プログラムを研究)

11:10 グループディスカッション・発表準備

12:00 昼食

12:40 各グループによる発表準備 (Google スライドの作成など)

13:40 各グループによる発表・質疑応答

15:15 振り返り

15:35 審査発表

16:00 解散

参加校：27校 61名

カネディアン・アカデミー、金沢大学附属高等学校、広島インターナショナルスクール、広島県立広島叡智学園、広島女学院、広尾学園高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、城ノ内中等教育学校、神奈川朝鮮中高級学校、成蹊中学校、清真学園高等学校、聖心女子学院高等科、大妻中野中学校、鷹来中学校、長崎県立長崎東高等学校、東京都立両国高等学校、白百合学園高等学校、浜松開誠館高校、富山市立南部中学校、PKUS SJS（中国）、PKUS HK（中国）、Beijing National Day School（中国）、Black Mountain Middle School（アメリカ）、Dunman High School（シンガポール）、Raffles Institution（シンガポール）、Sycamore High School（アメリカ）、Whitney M. Young Magnet High School（アメリカ）

運営委員：古川華帆、漆原奏江、古田和香奈、島田絢菜、伊藤杏珠（以上5名渋谷教育学園渋谷高等学校2年）
ファシリテーター：富田光太郎、山上海、杉尾花音、韓シア、中村香音、吉村美咲、釘宮明日香、富田夏妃（以上8名渋谷教育学園渋谷中学高等学校）

ゲスト：Ms. Patricia Lozada（Head of Model G20 Summit at Knowva Academy）によるオープニングスピーチ、ブラジルで気候変動と正義に関する教育プログラムを研究している留学生 Ms. Amanda Victoria によるブラジルでの環境教育についてのプレゼンテーション、トモノカイ所属の中村円香さんと Ms. Toue Naomi Soledad によるプレゼン審査とアドバイス。

（2）SOLA Cup 2022 中高生パラメンタリーディベート国際大会

SOLA Cup 2022 High School International Debate Tournament

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、学校法人 渋谷教育学園渋谷中学高等学校

協力：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社 トモノカイ、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト

趣旨：(1)全世界の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。

(2)他国のディベーターとの交流の機会となる他、日本の中高生のスピーチ力が他国の生徒との対戦で通用するのか、実力を試す機会とする。

(3)国際大会で度々活躍されてきたジャッジから質の高いフィードバックを受け、日本の高校生がグローバルスタンダードを知る機会とする。

日時・場所：

1) 予選大会 2022年11月12日（土）8:15~18:00・オンライン（Zoomを使用）

2) 決勝トーナメント 2022年11月13日（日）8:15~18:30・オンライン（Zoomを使用）

内容：World School's Debating Championships (WSDC) Style（8分、8分、8分、8分、8分、8分、4分、4分。但し、予選は本大会用に修正を加え、5分、5分、5分、5分、5分、5分、3分、3分とした）による英語ディベート大会。

チームの人数は3～5名（試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能）。予選4試合（2、3、4試合目はパワーペアリング）。各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位8チームを決め、決勝トーナメント。

参加資格：世界中の中学・高校に在学している中学1年生から高校3年生までの生徒。チームに少なくとも1人がパラメンタリーディベート大会 (HPDU, WSDC, Asian, BP, NA, etc.) の出場経験があること。また、その生徒は全ラウンドに出場すること。同一校・同一公式団体から最大1チームの参加とする。ただし、海外からの参加者は、この条件でチームを構成することが難しい場合、ジョイントも認めることとする。

参加費：無料

タイムテーブル：

第1日目 予選大会 Preliminary Rounds

- 8 : 15 点呼
- 8 : 45 ブリーフィング
- 9 : 10 第1試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 9 : 40 第1試合 (約 50分)
- 10 : 30 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 10 : 50 第2試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 11 : 30 第2試合 (約 50分)
- 12 : 20 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 12 : 40 休憩
- 13 : 10 第3試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 13 : 50 第3試合 (約 50分)
- 14 : 40 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 15 : 00 第4試合 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 15 : 40 第4試合 (約 50分)
- 16 : 30 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 17 : 35 結果発表
- 18 : 00 解散

第2日目 決勝トーナメント Break Rounds

- 8 : 15 点呼
- 8 : 45 ブリーフィング
- 9 : 10 準々決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 9 : 50 準々決勝 (約 70分)
- 11 : 00 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 11 : 20 準決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 12 : 00 準決勝 (約 70分)
- 13 : 10 ジャッジによる勝敗の説明 (20分)
- 13 : 30 休憩
- 14 : 00 決勝 対戦表・論題発表 (準備時間 30分)
- 14 : 40 決勝 (約 70分)
- 18 : 00 結果発表

18:30 解散

参加校：8カ国、38校、161名

日本 愛知県立千種高等学校、市川高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茨城県立日立第一高等学校、大妻中野中学校・高等学校、カリタス女子高等学校、神戸大学附属中等教育学校、渋谷教育学園渋谷中学校・高等学校、渋谷教育学園幕張中学校・高等学校、白百合学園中学高等学校、翔凛中学校・高等学校、聖光学院中学校高等学校、清真学園高等学校・中学校、洗足学園中学高等学校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場中学校・高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校・高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、南山高等学校、広尾学園高等学校、富士見高等学校、武蔵高等学校中学校

マレーシア Sekolah Menengah Kebangsaan Lutong、Catholic High School PJ

シンガポール Raffles Institution、River Valley High School、Dunman High School、Maris Stella High School、Catholic Junior College

ベトナム Vinschool

フィリピン University of Santo Tomas Senior High School

カナダ Sir Winston Churchill High School

パキスタン The City School E-11 Campus

インドネシア Maitreyawira Senior High School Batam、Man 2 Pekanbaru City、Penabur Kota Tangerang SHS、SMA Negeri 1 Samarinda

Motions (論題) :

予選 Round 1 This house supports Universal Basic Income as a tool for poverty alleviation.

「本院は、貧困緩和のための手段として、ユニバーサル・ベーシック・インカムを支持する。」

予選 Round 2 This house, as the feminism movement, would actively encourage girls to attend same-sex schools.

「本院は、フェミニズム運動として、女子が同性の学校に行くことを積極的に勧める。」

予選 Round 3 This house believes the Just Stop Oil protests are justified.

「本院は、Just Stop Oil のデモが正当化されると考えている。」

予選 Round 4 This house would require individuals to use all their wealth beyond \$5 million USD for philanthropic projects.

「本院は、個人が500万米ドルを超える全財産を慈善事業に使うことを義務付ける。」

準々決勝 This house regrets the rise of colorblind casting.

「本院は、人種を重視しない配役のキャスティングが台頭してきたことを後悔する。」

準決勝 This house believes that the existence of strong emotion in political discourse does more harm than good.

「本院は、政治的言説に強い感情が存在することは、良いことよりも悪いことだと考える。」

決勝 This house regrets the commercialization of the Sustainable Development Goals.

「本院は、持続可能な開発目標が商業化されたことを後悔する。」

予選大会結果：1位：Raffles Institution、2位：Sir Winston Churchill High School、3位：Joint Team (Dunman High School, Maris Stella High School, Catholic Junior College)、4位：栃木県立宇都宮東高等学校、5位：River Valley High School、6位：UWC ISAK Japan、7位：Vinschool、8位：渋谷教育学園幕張高等学校

ベストスピーカー：Neil He (Sir Winston Churchill High School)

決勝大会結果：優勝：Sir Winston Churchill High School、準優勝：渋谷教育学園幕張高等学校、3位：Joint

Team (Dunman High School, Maris Stella High School, Catholic Junior College), River Valley High School、5位：宇都宮東高等学校、Vinschool、Raffles Institution、UWC ISAK Japan

ジャッジ (審査員) : パーラメンタリーディベート経験豊富な社会人、大学生、高校生がジャッジとして参加した。予選大会では各ディベートに対し1人のジャッジが審査を行い、予選の各ラウンド及び準々決勝、準決勝の終了後にはジャッジが口頭で試合の勝敗とその理由を説明した。準々決勝では各ディベートに3人、準決勝では5人、決勝では7人のジャッジが審査を行った。

ジャッジリスト:

1. Riku Saito (HPDU 連盟杯 2018 Champion and Best Speaker, PDA 全国大会 2018 Champion and Best Speaker, Taylor's Debate Open 2020: Quarterfinalist and Open Best Speaker)
2. Aron Josh Bernaldo (Member of The Thomasian Debaters Council, DebateLink Charity Cup 2022 (WSDC format) - Grand Finals Adjudicator, Lasallian Interschool Trainings 2022 (BP format)- Grand Finals Adjudicator, London Juniors Debating Cup 2022 (BP format) - Quarter Finals Adjudicator)
3. Earl Gregorio R. Giganrone (Member of Thomasian Debaters Council at The University of Santo Tomas, Southern Luzon Inter High School Debate Encounter - Open Octofinalist, Polemic 2021 - Open Octofinalist, Interschool Debate 2021 - Open Semifinalist, Asian International School Debating Championship 2021 - Finalist, Shibuya Olympiad in Liberal Arts 2021 - Quarter finalist, Pakistan Debate Open - Open Pre-Quarter Finalist)
4. Matthew Godslove (Full stack developer at New Horizon, Western High Schools - Judged open quarterfinals and novice finals, Xerxes Cup - Judged open finals, UBC Spring High Schools- Judged novice finals, International Women's Day Open - CA, Cornell Novice Nationals - DCA)
5. Oloruntoyin Muhammadbaqir Akorede (Pan African Universities Debating Championship - Breaking Judge, Hong Kong International Debate Open - Invited Adjudicator, UDM - Invited Adjudicator, Grand Finals Panelist)
6. Alex Olafisoye (Malaysia UADC 2022 - Invited Adjudicator, London Juniors 2022 - Semifinals' panelist, DAIC Open 2022 - ESL finals' panelist, DialectIX Pro-Am 2022 - Winner and third best speaker, All Nigerian Universities Debating Championship - Quarterfinalist and best Novice speaker, Immortals 2022 - Semifinalist and Eighth Best speaker)
7. Owolabi Victor Oluwatobi (Coach at University of Ilorin, Asia world school 2022 - Quarterfinal Panelist, Invited adjudicator, WORLD schools debate open (WSDO) 2022 - Grand final Panelist, Invited adjudicator, Southern Africa Universities Debate Championship (SAUDC) 2022 - quarterfinal Panelist, Invited adjudicator, 8th Shanghai International Debate Open - Semifinals judge, invited adjudicator, Meadowridge School Debate Tournament (MSDT) - grand finals judge, invited adjudicator, Hong Kong Senior Schools Debating Competition - open grand finals judge)
8. Thuy-An Pham (Thai Binh High School for the Gifted (Vietnam), Student - Advisor of School's Debate Club, Shanghai Novice Debate Open 2022 - Open Semifinalist, Hong Kong Online WSDC International 2022 - Breaking Adjudicator, Senior SDC 2022 - Subsidized Adjudicator)
9. Dominic Stanley-Marcus (Debate Coach of Rivers State University, Western Inter-Varsity (IV) - Breaking Adjudicator, All-Nigerian Universities Debate Championship (ANUDC) - Best Adjudicator, Covenant University Inter-Varsity Debating Championship, 4th Edition (CUIVDC) -

- Best Adjudicator, 15th Hansraj Parliamentary Debate – Best Adjudicator)
10. Olamilekan Oderanti (Belgrade WUDC 2022 – Judge, DIALETIX Pro-Am 2022 – Finals and semi-finals Chair, best judge, Asia World Schools Debate Open (AWSDO) – 3rd best judge and Octo-finals Panelist, London juniors debating cup – Finals wing and Quarterfinals chair)
 11. Gin Nguyen (Vice President Gia Dinh Debate Club, Trouvaille Debate Open 2022 – Finalist, YOLO Mini Tournament 2022 – Best Speaker, Final Panelist Swinburne Debate Tournament 2022 – Breaking Adjudicator, Semifinal Panelist Beu Debate Championship 2022 – Breaking Adjudicator)
 12. Simran Nischal (Joint Secretary of Cross Swords, Debating association of SGGSCC DU, Agonia BPD 2022 – Semi-finalist, 8th Best Speaker, Red Brick Debate 2022 – Finalist, 5th best speaker, Canada University School International Debate CUSID 2022 – Quarter Finals Judge, NSUT CD 2022 – Best Speaker)
 13. Ayodele Samuel (Programs Director at University of Ilorin Debate Club, Assistant Coach of Team Nigeria WSDC, Hart House Inter-Varsity 2021 – Invited Adjudicator and Open Quarterfinals Panelist, The 8th Shanghai International Debate Open 2022 – Invited Adjudicator, Open Semifinals Panelist, The John Hopkins University Debate Open 2022 – Invited Adjudicator, Open Semifinals Panelist, The Queens Debating Union Summer Charity Cup 2022 – Invited Adjudicator and Grand Finals Panelist)
 14. Ayodele Bolaji (Debate coach Jonas school, Pre World War tournament – Invited adjudicator)
 15. Devansh Dubey (Student at National Law Institute University, Bhopal, India, 48th Annual Harvard National Forensics Tournament – Breaking Adjudicator, Manchester Schools 2022 – Breaking adjudicator, Novice finals Judge, SLSP Asian Parliamentary Debate 2021 – Runners up, St Stephen’s Pro-Am British Parliamentary Debate 2021 – Finalist, 3rd best Am Speaker)
 16. Wu Yu (Student at Raffles Institution, Dutch Schools Debating Championship – 6th team placing, Shanghai International Debate Opens – high school quarterfinalist)
 17. Zhao Jiankai (Student at Raffles Institution, Oldham Cup– Octofinalist, Singapore Model Parliament – 2nd place, Hwa Chong British Parliamentary – 8th Best Speaker, Wits & Words Inter-School Debate Championship – Invited Adjudicator)
 18. Austin Kelachukwu (Student at Federal University Of Technology, Owerri, Meadowridge School Debate Tournament 2022 – Panelist at Open Grand Finals, Canadian University Society For Intercollegiate Debate Nationals Open 2022 – Panelist at Open Quarter Finals, Zimbabwe Easters Open 2022 – Panelist at Open Quarter Finals)
 19. Yong Kai Seng (Student in Hin Hua High School, HELP University’s Asian Secondary School Online English Debate Challenge 2022– Octo-finalist, 9th best speaker, UOW KDU Interschool Debate British Parliamentary 2022 – Semi-finalist, 4th best speaker, The Interschool Debate 2022 – Breaking adjudicator, Asia Schools Debating Championship 2022 – Breaking adjudicator)
 20. Nga Ji Yang (3rd year High School Student at UWC ISAK Japan, Tenby International Schools Ipoh Global Perspectives Debate 2020 – Champion & Finals Best Speaker, Route H English Debate Open – 2nd place, Overall 13th Best Speaker, Greenery Cup 2021 – 4th Place)
 21. Wong E Jeh (Student of Raffles Institution, Judge at Wits and Words Singapore 2022)
 22. Manda Bagas Kara (UADC 2022 – Invited and Breaking Adjudicator Malaysia, World School Debate

- Open 2022 by Wolce - Invited and National final Chair, TOC WSDC Asia 2022 - Invited and Open Grandfinal judge, Asia World School Debate Open 2022 - Invited and Open Semifinal judge)
23. Bharath Venkataramanan (Student at Raffles Institution, Adjudication for Wits and words Semi finals, quarter-finals, and breakout rounds)
24. Huda Yoti (Training Officer (Coach) at English Debating Society at University of Technology Malaysia, Malaysian Royal Interschool Debating Championship 2022 - AP, Semifinals, Malaysian Royal Interschool Debating Championship 2021 - AP, Subsidised Judge, Malaysian National Universities Debating Championship 2021 (MNUDC) - AP, Breaking Judge till Open Quarterfinals)

他 2名

ボランティア：運営委員16名、大学生1名【合計】17名

HPDU 役員以外の運営委員：古田和香奈、漆原奏江、伊藤杏珠、島田絢菜、荒井さちこ、中村香音、佐藤優太、田野井鈴歌、後藤美虹、菅野紘子、二井春香、浅原生水、葛谷紗永、佐藤徳之丞、野中杏奈、韓シア（チーフジャッジ：齋藤陸（HPDU 連盟杯 2018 Champion and Best Speaker, PDA 全国大会 2018 Champion and Best Speaker, Taylor's Debate Open 2020 Quarterfinalist and Open Best Speaker）

（3）第5回 HPDU 中学生パラメンタリーディベート大会

HPDU Middle School Competition 2023

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノカイ

協力：エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト

- 趣旨：①全国の中学生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を身につける意義を伝える。
- ②高校生の社会貢献活動や社会参画についての意識を高めるとともに、企画・運営力を育成する。また、ジャッジの役割を通して、自己のディベート力を向上させる。※高校生ジャッジは、18か月以上のパラメンタリーディベート経験があり、公正なジャッジと勝敗の説明・アドバイスが可能な者に限る。

日時：2023年2月23日(木) 9:00～17:00

場所：オンライン（Zoom、LINE）にて実施

参加費：1チーム 3000円、個人参加は1000円

参加資格：中学生(留学生、帰国生、外国籍の生徒も含む)。学校、個人での申し込み共に可能。学校単位で申し込む場合は1校につき2チームまで。チームの人数は3～5名(試合に出場するのは3人だが、試合ごとに選手入替可能)。人数が足りない場合は、運営側で他の個人申込者と組み合わせてチームを用意。

試合形式：短縮型ノースアメリカン・スタイル [4分、4分、4分、4分、3分、3分] (Constructive speech が4分で、Reply speech が3分)。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合数4試合(2試合以降はパワーペアリング)。

参加校：24校、35チーム、133名

東邦大学附属東邦中学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、南山中学校女子部、浅野中学校、聖光学院中

学、広島学院、栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校、渋谷教育学園幕張中学校、翔凜中学校、神戸大学附属中等教育学校、栄光学園中学校、茨城県立並木中等教育学校、市川中学校、京都橘中学校、攻玉社中学校、渋谷教育学園渋谷中学校、東海中学校、三田国際学園中学校、筑波大学附属駒場中学校、広尾学園中等学校、武蔵高等学校中学校、鷹来中学校、早稲田佐賀中学校

Motions(論題)：

Round 1: THW ban homework

「本院は、宿題を廃止する。」

Round 2: THW ban countries with poor human rights records from hosting major international sporting events (i. e. Olympics, World Cup, etc)

「本院は、人権侵害の記録のある国がオリンピック等の国際的スポーツ大会を主催することを禁止する。」

Round 3: Given the opportunity, THW choose to become immortal

「本院は、その機会があれば不老不死になる。」

Round 4: THBT the “autistic genius” in pop culture does more harm than good

「本院は、メディアにおける『自閉症の天才』の描写はメリットよりデメリットが多いと信じる。」

試合結果：優勝：渋谷教育学園幕張中学校、準優勝：渋谷教育学園渋谷中学校 A、3位：渋谷教育学園渋谷中学校 B

ベストスピーカー賞：1位：鐘ヶ江征治（渋谷教育学園幕張中学校）2位：二井春香（渋谷教育学園渋谷中学校）3位 桂正菜奈未（渋谷教育学園幕張中学校）

ボランティア：運営委員 16名、社会人 2名、高校生 22名【合計 40名】

高校生運営委員：江口花音、池田碧月、古田和香奈、島田絢菜、伊藤杏珠、漆原奏江、根来一葉、古川華帆、杉尾花音、後藤美虹、中村香音、吉村美咲、田野井羚歌、荒井さちこ、谷田そよ、釘宮明日香（以上 16名 渋谷教育学園渋谷高校）

高校生ジャッジ：古川華帆（渋谷教育学園渋谷高等学校）、池田碧月（渋谷教育学園 渋谷高等学校）、根来一葉（渋谷教育学園渋谷高等学校）、後藤美虹（渋谷教育学園渋谷高等学校）、荒井さちこ（渋谷教育学園渋谷高等学校）、江口花音（渋谷教育学園渋谷高等学校）、中村香音（渋谷教育学園渋谷高等学校）、田野井羚歌（渋谷教育学園渋谷高等学校）、谷田そよ（渋谷教育学園渋谷高等学校）、吹上慧（聖光学院高校）、大久保友梨（栃木県立宇都宮東高等学校）、松田紗希（栃木県立宇都宮東高等学校）、金 垠智（栃木県立宇都宮東高等学校）、斎藤美春（栃木県立宇都宮東高等学校）、ヴェチェレック奏歩亜（三田国際学園高等学校）、カカラマユカ（三田国際学園高等学校）、杉本苗優（東邦大学付属東邦高等学校）、大河花寧（東邦大学付属東邦高等学校）、武藤優（東邦大学付属東邦高等学校）、廣瀬莉子（東洋英和女学院高等部）、ファスカインディゴ風（筑波大学駒場高等学校）

(4) 日本高校生パラメンタリーディベート連盟四国九州オープン 2023

HPDU Shikoku Kyushu Open 2023

共同主催：日本高校生パラメンタリーディベート連盟九州 HPDU of Kyushu、日本高校生パラメンタリーディベート連盟四国 HPDU of Shikoku

共催：日本高校生パラメンタリーディベート連盟、九州大学アジアオセアニア研究教育機構文化変動クラスター

後援：国立大学法人九州大学、有限責任 あずさ監査法人、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社トモノ

カイ、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、西日本シティ銀行、福岡日英協会、一般社団法人 日本英語交流連盟、一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会、特定非営利活動法人 全国教室ディベート連盟、合同会社 WSC Japan

協賛：株式会社ベネッセコーポレーション Global Learning Center

協力：トビタテ！留学 Japan

趣旨：①四国・九州地区の高校生等が、パーラメンタリーディベートを通して、英語によるコミュニケーション能力や論理的思考能力を向上させる機会を得ること、②参加する高校生等が、社会問題への高い関心・知識・知見、批判的思考のための技能・態度、チームメイトや対戦相手と協働・対話することなどの重要性を学ぶこと、③参加校の教員等が、ジャッジやスタッフなど大会運営に参画する機会を通じて、ディベート活動の経験・ノウハウを共有し、持続的なディベート・コミュニティの形成に貢献すること、④四国・九州地区と他地区の生徒・教員等が、相互に交流する機会を得ること。

日時：2023年3月11日（土）・12日（日） 両日とも8:30~17:30

場所：オンライン Zoom、LINEにて実施

大会進行：予選5ラウンド、本選はベスト8（Quarter Final）から

参加資格：日本国に所在する高等学校および中学校等（各種学校を含む）に在籍する生徒（留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む）。

① 1チーム3名。2名での参加や4名以上で交代出場することは原則として認められない。チーム内における帰国子女、外国籍の生徒の人数制限はない。

② ジョイントでの参加（異なった学校の生徒同士でチームを組み出場すること）も可。

③ 英会話学校や英語学習プログラムを単位として複数の異なった学校の生徒同士がジョイントで申し込むことも可。その場合は、担当講師の方（事前、当日の連絡が可能な成人以上の方）が申し込む。

ノービス・カテゴリー：①中学生、②高校生であり、かつディベート経験が1年未満の者（中学以前のディベート経験を含む）※ノービス・スピーカー以外のすべてのスピーカーはオープン・スピーカーと呼称。

参加費：1チーム 3,000円。ジャッジ提供が難しい場合、参加1チーム→参加費3,000円+運営スタッフ1名提供。参加2チーム→参加費6,000円+ジャッジ1名+運営スタッフ1名提供（または運営スタッフ2名提供）。

試合形式：ノースアメリカン・スタイル短縮版 [5分、5分、5分、5分、4分、4分]（Constructive speech が5分で、Reply speech が4分）。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。予選5試合（2試合以降はパワーペアリング）、ブレイクラウンドは準々決勝から。

日程：

1日目

8:30~8:50 開場

8:50~9:10 開会式（Opening Ceremony）

9:20~10:50 ROUND 1

11:00~12:30 ROUND 2

12:30~13:20 昼食

13:20~13:50 時間調整のための予備時間

13:50~15:20 ROUND 3

15:30~16:40 ROUND 4（サイレント）

16:40~16:50 時間調整のための予備時間

16:50~17:20 スポンサー・レクチャー

17:20~17:30 クロージング

2日目

8:30～8:50 開場

9:00～10:10 R5(サイレント)

10:10～10:40 スポンサー・レクチャー

10:40～11:10 時間調整のための予備時間

11:10～11:20 ブレイクアナウンスメント

11:30～12:40 準々決勝 (Quarter Final)

12:40～13:30 昼食 (Lunch / Issues & Focuses*)

13:40～15:10 準決勝 (Semi-Final / Issues & Focuses)

15:20～16:50 決勝 (Grand Final / Issues & Focuses)

16:50～17:10 時間調整のための予備時間

17:10～17:30 閉会式 (Closing Ceremony)

参加校：25校、46チーム、138名

栃木県：栃木県立宇都宮東高校

埼玉県：さいたま市立浦和高校

千葉県：翔凜高校

東京都：東京都立日比谷高校、東京都立富士高校

神奈川県：聖光学院高校、栄光学園高校

静岡県：常葉大学附属橘高校、浜松開誠館高校

長野県：長野県立長野高校

福井県：福井県立藤島高校

京都府：京都府立嵯峨野高校

兵庫県：神戸大学附属中等教育学校

徳島県：徳島県立城ノ内中等教育学校

高知県：高知県立須崎総合高校

福岡県：福岡県立東筑高校、福岡県立香住丘高校

熊本県：熊本県立熊本商業高校、真和高校、尚綱高校

鹿児島県：鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島県立鹿児島中央高校、ラ・サール高校

ジョイント：NND

Motions(論題)：

Round 1: For high school students to confess their love, THBT sending messages online is better than face-to-face talk.

Round 2: THBT the perception of teachers as sacred callings does more harm than good.
Info: "Teacher as sacred calling" [教師聖職者論] is the dominant narrative in educational sectors. Accordingly, teaching is a sacred job: they owe a duty to society, to their children, and to future generations. Therefore, they continue to do their work even when their salaries are low. This narrative has also justified long working hours and passion exploitation [やりがい搾取] of teachers.

Round 3: THW ban films and music which describe socially undesirable conducts (e.g. drug abuse, racism)

Round 4: THBT all democratic countries should stop all economic ties with Russia (including any

economic relations, such as trade and tax payer information exchange)

Round 5 : THBT the feminist movement should oppose popular fairy tales which portray stereotypes of women. (e.g. Cinderella, Snow White [白雪姫])

Quarter Final : In STEM education, THBT governments should equally subsidize all schools rather than heavily prioritize the top layers.

Info: Super Science High School (SSH) is a program that designates high schools with a strong focus on science, technology, engineering, and mathematics education, offering experimental equipment for advanced research, collaboration opportunities with universities, and support for academic presentations and domestic/overseas training. However, Prof. Hidehiko Agata of the National Astronomical Observatory of Japan (NAOJ) has concerns that it undermines equal access to educational resources and opportunities, given the program concentrated a large budget on a limited number of schools.

Semi Final : THBT states should incentivize depopulated communities to move urban areas rather than invest and make them sustainable.

Info: "Depopulated communities" are areas that have suffered a significant decline in population, resulting in a loss of economic and human resources that make it difficult to maintain local communities. To sustain their infrastructure and public services (e.g. electricity, water supply, postal services, hospital), these areas often rely heavily on government support. For instance, in Meguro-ku, Tokyo, only 340,000 yen of public funds are invested per capita, while in Ama Town, Shimane Prefecture, 2.6 million yen are invested per capita. Without government support, it would be impossible for these areas to sustain themselves.

Grand Final: THBT scholar activism in public universities does more harm than good.

Info: Scholar activism refers to academics being involved in social and political issues, creating awareness through protests, writing comments, and influencing policymakers. A number of issues are dealt with, including racial and gender justice, environmental sustainability, economic inequality, immigration, and global health. Notably, the academic works of Chizuko Ueno, Professor Emeritus, University of Tokyo, are strongly connected with feminist movements. Scholar activism is criticized, however, for blurring the line between scholarship and advocacy, potentially compromising the neutrality and objectivity of research, and being driven by political ideology rather than empirical research.

試合結果 :

【Open カテゴリー】

優勝 : 神大附属 F (金光悠良・脇阪紀恵・浅野心春)、準優勝 : 聖光 (吹上慧・菊野遥路・中尾颯太)

Semi-Finalist : 浦和 A (根本優花・山田健太・小倉巧夢)、栄光 (真柄龍・佐藤諒以・三富耀)

Quarter Finalist : 都立富士 (垣見美羽・庭田みのり・山岡優佳理)、鶴丸 B (中原叶和子・中間優凜・高橋悠日)、ラサール A (佐藤優伍・平尾晋太郎・植村天晴)、城ノ内 A (大芝晴揮・鈴木龍成・堤遥菜)

【Novice カテゴリー】

優勝 : 藤島 B (島一織・奥村一輝・本田俊矢)、準優勝 : 長野 (小林虎聖・関櫻子・田中小弓)

Semi-Finalist：城東（細井誇音・Marianne Locas-Ouimet・Leonore Lande Trønnes）、鹿児島中央 A（山口咲楽・渡邊みのり・重村柚花）

Quarter Finalist：藤島 A（河井駿佑・伊藤加恋・加藤翔太郎）、NND（鈴木優馬・井上惣一郎・中村美杏）、鶴丸 C（助田梨里香・三角優歩・城ヶ崎ゆりえ）、神大附属 E（藤田あかり・吉永信美・鈴木葉瑠子）

【四国九州カテゴリー】

優勝：城ノ内 B（齋藤遙・石田理沙・徳山諒汰）、準優勝：鶴丸 A（押領司雅也・中村優華・田尾優佳）

Semi-Finalist：香住丘 B（羽村玲音・大坪由吏雅・新出園華）、鹿児島中央 B（園田紗世・田邊龍之介・室屋美桜）

スピーカープライズ

【Open カテゴリー】1. 吹上慧（聖光）1. 菊野遥路（聖光）3. 佐藤諒以（栄光）4. 中尾颯太（聖光）4. 松浦茅南（神大附属 B）6. 関櫻子（長野）7. Marianne Locas-Ouimet（城東）8. 三富耀（栄光）8. 山田健太（浦和 A）8. 真柄龍（栄光）8. 堤遥菜（城ノ内 A）

【Novice カテゴリー】1. 関櫻子（長野）2. Marianne Locas-Ouimet（城東）3. 田中小弓（長野）3. 奥村一輝（藤島 B）3. 島一織（藤島 B）3. 井上惣一郎（NND）7. 浦上尚子（神大附属 B）8. 本田俊矢（藤島 B）8. 河井駿佑（藤島 A）8. 鈴木優馬（NND）

【四国九州カテゴリー】1. Marianne Locas-Ouimet（城東）2. 堤遥菜（城ノ内 A）3. 大芝晴揮（城ノ内 A）4. 鈴木龍成（城ノ内 A）5. 細井誇音（城東）5. 中間優凜（鶴丸 B）7. 高橋悠日（鶴丸 B）7. 新出園華（香住丘 B）7. 佐藤 優伍（ラサール A）7. 中村美杏（NND）

運営体制：

大会実行委員長：大賀哲（HPDU 九州／九州大学）、大会実行副委員長：和泉太輔（HPDU 四国／徳島県立城ノ内中等教育学校）、大会顧問：北原隆志（HPDU of Japan 理事長／渋谷教育学園渋谷中学高等学校）
大会顧問：加藤彰（HPDU 四国九州 代表／九州大学）、審査委員長（CA）：浪崎陽菜（九州大学／東筑高校出身）、審査委員（DCA）：石塚玲於那（九州大学／ラ・サール高校出身）高瀬瞭（九州大学／長野高校出身）、西村青空（九州大学／福岡県立香住丘高校出身）、松瀬真未（九州大学／佐世保北高校出身）、山田侑芽（九州大学／広島県立広島高校出身）

（5）第12回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯

HPDU Competition 2023 (Co-sponsored by HPDU and ESUJ)

共同主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、一般社団法人 日本英語交流連盟

後援：文部科学省、ブリティッシュ・カウンシル、カナダ大使館

特別協賛：有限責任 あずさ監査法人

協賛：公益財団法人 日本英語検定協会、iae グローバルジャパン株式会社、株式会社テレビ東京、キヤノン株式会社、キヤノンマーケティングジャパン株式会社、ANA ホールディングス株式会社、株式会社トモノカイ

メディアパートナー：読売新聞社

協力：株式会社アルク、イーエムティー株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団

趣旨：全国の高校生に、即興型であるパラメンタリーディベートの試合を行う機会を提供することにより、グローバル社会で活躍するのに必要とされる英語による論理的発信能力、問題発見解決能力、クリティカル・シンキング、コラボレーション力、グローバル課題や時事問題についての基礎知識、そして緩急やジェスチャー、ユーモアなどを意識した聞き手目線の分かりやすいパブリック・スピーチ力を

養う。また、参加者間の交流を図り、共に学び合う関係を作る。

日時・場所:

- 1) 都道府県大会 2023年1月4日(水)～2月11日(土・祝) 場所は各地域で決定し実施
- 2) 全国大会 2023年3月25日(土) 15:00～27日(月) 17:00 オリンピック記念青少年総合センター

参加費: 1チームにつき18,000円(選手及び引率者の大会中の食費と宿泊費を含む。)

内容: World School's Debating Championships(WSDC) Style (但し本大会用に修正を加えたもの) による英語ディベート大会 1チーム3名、予選4試合(2、3、4試合目はパワーペアリング) 各チームの勝ち数と得点ポイントで、上位8チームを決め、決勝トーナメント

全国大会参加資格: 日本に住所がある高校に在学している学生(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)のうち、日本高校生パラメンタリーディベート連盟に公式認定された**各都道府県大会に参加**して出場権を獲得した者、または本連盟より特別に出場権を与えられた者(同一都道府県内の出場希望校が1校であった場合など)。同一校のチームの参加とする。ただし、英会話スクールなど高等学校以外の団体は例外とする。

タイムテーブル:

第1日目 開会式・モデルディベート

- 15:00 受付、入場(センター棟417にて)
- 15:30 開会式
- 16:20 プレゼンテーション① 公益財団法人日本英語検定協会
引率者ミーティング(センター棟416にて)
- 17:00 宿泊施設チェックイン、夕食(センター棟2階カフェテリア「ふじ」にて)
- 19:00 UK&日本人ディベーターによるモデルディベート(センター棟417にて)
プレゼンテーション② iaeグローバルジャパン株式会社
- 21:00 伝達後解散

第2日目 予選

- 7:00 朝食(カフェテリア「ふじ」にて)
- 8:45 第1試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)
- 9:10 第1試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分)
- 10:50 第2試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)
- 11:15 第2試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明)
- 12:35 昼食(カフェテリア「ふじ」にて)
- 14:00 第3試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)
- 14:25 第3試合開始(試合後ジャッジによる勝敗の説明 約30分)
- 16:05 第4試合の対戦表・論題発表(準備時間20分)
- 16:30 第4試合開始(試合後勝敗の発表なしのアドバイス 約20分)
- 18:00 夕食(カフェテリア「ふじ」にて)
- 19:30 ワークショップ(センター棟417にて)
プレゼンテーション③ 株式会社トモノカイ
- 21:00 伝達後解散

第3日目 決勝トーナメント、トーナメント2(ベスト9～16のチームによるトーナメント)

- 7:00 シーツ回収、朝食（カフェテリア「ふじ」にて）
 9:00 集合、点呼
 9:10 トーナメント出場チーム発表
 9:30 準々決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）
 10:00 準々決勝 試合開始、英国人ディベーターによるワークショップ
 11:05 準決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）
 11:40 準決勝 試合開始
 12:20 昼食（カフェテリア「ふじ」にて）
 13:30 決勝 対戦表・論題発表（準備時間25分）
 プレゼンテーション④ 株式会社 テレビ東京
 14:00 決勝 試合開始
 15:30 閉会式 表彰
 16:30 解散

都道府県大会参加校：

- 愛知県（4）愛知県立旭丘高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立千種高等学校、東海高等学校
 茨城県（10）茨城県立竹園高等学校 茨城県立並木中等教育学校茨城県立日立第一高等学校 茨城県立古河第三高等学校茨城県立水戸第一高等学校 茨城県立水戸第二高等学校茨城県立緑岡高等学校 茗溪学園高等学校 清真学園高等学校東洋大学附属牛久高等学校
 岩手県（4）岩手県立一関第一高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立福岡高等学校 盛岡中央高等学校
 大阪府（3）関西創価高等学校 北野高校 豊中高校
 岡山県（3）岡山県立岡山朝日高等学校、岡山県立岡山大安寺中等教育学校、岡山県立岡山城東高等学校
 鹿児島県（9）育英館高等学校 鹿児島県立大島高等学校、鹿児島県立鹿児島中央高等学校、鹿児島県立甲南高等学校鹿児島県立武岡台高等学校、鹿児島県立鶴丸高校、鹿児島実業高等学校、鹿児島情報高等学校、ラ・サール高等学校
 神奈川県（13）浅野高等学校、栄光学園高等学校、湘南白百合学園高等学校、聖光学院高等学校、神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立相模原高等学校、神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立多摩高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、カリタス女子高等学校、慶應義塾高等学校、逗子開成高等学校、桐光学園高等学校
 熊本県（1）真和高等学校
 埼玉県（3）さいたま市立浦和高等学校 埼玉県立大宮高等学校、埼玉県立川越女子高等学校
 静岡県（13）静岡県立清水東高等学校 静岡県立浜松江之島高等学校静岡県立浜松湖南高等学校 静岡県立浜松北高等学校静岡県立浜松西高等学校 静岡県立藤枝東高等学校静岡県立三島北高等学校 静岡県立吉原高等学校静岡県立雙葉学園高等学校常葉大学附属橘高等学校 浜松開誠館高等学校藤枝明誠中学校高等学校 不二聖心女子学院中学校高等学校
 千葉県（7）芝浦工業大学柏高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、翔凜高等学校、千葉市立稲毛高等学校、千葉県立船橋高等学校、千葉県立松戸国際高等学校 東邦大学東邦高等学校
 東京都（20）大妻中野高等学校 攻玉社高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、白百合学園高等学校、創価高等学校、千代田区立九段中等教育学校、筑波大学附属駒場高等学校、帝京大学高等学校 東京学芸大学附属高等学校、東京都立田柄高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立富士高等学校、東京都立両国高等学校、東洋英和女子学院高等部、豊島岡女子学園高等学校、獨協高等学校、広尾学園高等学校、富士見高等学校、三田国際学園高等学校、早稲田大学高等学院

徳島県(1) 徳島県立城之内高等学校

栃木県(9) 栃木県立足利高等学校 栃木県立宇都宮高等学校 栃木県立宇都宮東高等学校 栃木県立宇都宮女子高等学校 栃木県立大田原高等学校 栃木県立大田原女子高等学校 栃木県立佐野高等学校 栃木県立栃木女子高等学校 作新学院高等学校

富山県(1) 富山国際大学付属高等学校

長野県(3) 長野県立伊那北高等学校 長野県屋代高等学校 UWC ISAK Japan

兵庫県(1) 神戸大学附属中等教育学校

広島県(1) 広島学院高等学校

福井県(1) 福井県立藤島高等学校

福岡県(3) 香住丘高校 城南高校 東筑高校

山梨県(1) 山梨県立甲府西高等学校

(以上 111 校)

全国大会参加校：47校 47チーム 141名

岩手県 岩手県立一関第一高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校

茨城県 茗溪学園中学校高等学校、清真学園高等学校・中学校、茨城県立竹園高等学校、日立第一高等学校

栃木県 栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、作新学院高等学校

埼玉県 埼玉県立大宮高等学校

千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校、芝浦工業大学柏高等学校、翔凜高等学校

東京都 渋谷教育学園渋谷高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、東京都立富士高等学校、東京都立両国高等学校、東洋英和女学院、東京都立田柄高等学校、豊島岡女子学園高等学校、広尾学園高等学校

神奈川県 栄光学園高等学校、カリタス女子高等学校、聖光学院高等学校、洗足学園中学高等学校、神奈川県立多摩高等学校、

富山県 富山国際大学付属高等学校

福井県 福井県立藤島高等学校

山梨県 山梨県立甲府西高等学校

長野県 長野県屋代高等学校

静岡県 藤枝明誠中学校高等学校、静岡県立三島北高等学校、浜松開誠館、浜松江之島高校、静岡県立清水東高等学校

愛知県 東海高等学校、愛知県立旭丘高等学校

大阪府 関西創価高等学校

兵庫県 神戸大学附属中等教育学校

岡山県 岡山県立岡山大安寺中等教育学校

広島県 広島学院中学校・高等学校

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校

福岡県 福岡県立東筑高等学校

熊本県 真和高等学校

鹿児島県 ラ・サール高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立甲南高等学校

Motions (論題) ・ 対戦記録：

■ 予選で用いられた論題

Round 1	This house believes that big businesses should encourage their employees to work from home even after pandemics	勝利数: [肯定側] 11 (45.9%) [否定側] 13 (54.1%)
---------	---	---

	are no longer a threat to public health and safety.	
Round 2	This house believes that a world without extreme emotions (falling madly in love, extreme grief, boiling rage) is a better world.	勝利数: [肯定側] 11 (45.9%) [否定側] 13 (54.1%)
Round 3	This house believes that feminism is incompatible with capitalism.	勝利数: [肯定側] 12 (50%) [否定側] 12 (50%)
Round 4	This house believes that multinational companies should equalize wages for their workers in developing countries with those in their home countries.	勝利数: [肯定側] 5 (20.1%) [否定側] 19 (79.1%)
予選全体 [肯定側] 41 (41.4%) [否定側] 57 (59.4%)		

■ 決勝トーナメント・結果（対戦組み合わせの左側が Gov, 右側が Opp）

QF	○This house would ban tobacco. 【T2】 ・ Seiko [2] vs Seiichi [1] ・ Fujishima [3] vs Senzoku [0] ・ Tsurumaru [0] vs Toyo Eiwa [1] ・ Utsunomiya [1] vs Asahigaoka [0] 【Main】 ・ Makuhari [3] vs. Hiroo [0] ・ Eiko [3] vs. Utsunomiya [0] ・ Ohmiya [2] vs. Shibuya [1] ・ Tsukukoma [3] vs. Kobe USS[0]
SF	○This house believes that assassination is a justifiable response to the human rights abuses and political oppression committed by political leaders. 【T2】 ・ Utunomiya [1] vs Toyo Eiwa [2] ・ Seiko [3] vs. Fujishima [0] 【Main】 ・ Makuhari [4] vs Eiko [1] ・ Tsukukoma [4] vs Ohmiya [1]
GF	○This house believes that the present condition of humanity is better than it would be in 100 years. 【T2】 ・ Toyo Eiwa [5] vs Seiko [0] 【Main】 ・ Tsukukoma [1] vs. Shibumaku [6]

予選大会結果:

順位	学校名	勝数	得点	順位	学校名	勝数	得点
1	渋谷教育学園幕張高等学校	4	1106.0	25	関西創価高等学校	2	1050.0

2	神戸大学附属中等教育学校	4	1090.5	26	カリタス女子高等学校	2	1049.0
3	渋谷教育学園渋谷高等学校	4	1083.0	27	神奈川県立多摩高等学校	2	1048.0
4	栄光学園高等学校	3	1084.0	28	清真学園	2	1044.5
5	栃木県立宇都宮東高等学校	3	1078.0	29	鹿児島県立甲南高等学校	2	1034.5
6	埼玉県立大宮高等学校	3	1073.5	30	ラ・サール高等学校	2	1033.5
7	筑波大学附属駒場高等学校	3	1072.0	31	藤枝明誠中学校高等学校	2	1033.0
8	広尾学園高等学校	3	1070.5	32	東京都立田柄高等学校	2	1014.0
9	聖光学院高等学校	3	1070.0	33	東京都立富士高等学校	1	1077.0
10	栃木県立宇都宮高等学校	3	1068.0	34	徳島県立城ノ内中等教育	1	1071.5
11	東洋英和女学院	3	1066.0	35	茗溪学園中学校高等学校	1	1057.5
12	福井県立藤島高等学校	3	1065.0	36	浜松開誠館	1	1054.0
13	洗足学園中学高等学校	3	1053.5	37	岩手県立盛岡第一高等学校	1	1047.5
14	鹿児島県立鶴丸高等学校	3	1053.0	38	豊島岡女子学園高等学校	1	1044.5
15	愛知県立旭丘高等学校	3	1021.0	39	日立第一高等学校	1	1044.0
16	岩手県立一関第一高等学校	2	1071.5	40	静岡県立三島北高等学校	1	1040.0
17	作新学院高等学校	2	1067.5	40	静岡県立清水東高等学校	1	1040.0
18	東海高等学校	2	1067.0	42	茨城県立竹園高等学校	1	1024.5
19	岡山県立岡山大安寺中等教育	2	1065.0	43	真和高等学校	1	1024.0
20	長野県屋代高等学校	2	1062.0	44	広島学院高等学校	1	1020.5
21	翔凜高等学校	2	1056.5	45	山梨県立甲府西高等学校	0	1054.0
22	浜松江之島高校	2	1054.0	46	芝浦工業大学柏高等学校	0	1046.5
23	福岡県立東筑高等学校	2	1052.5	47	富山国際大学付属高等学校	0	1037.0
24	東京都立両国高等学校	2	1050.5				

ベストスピーカー：

順位	学校名	名前	得点
1	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Narukami	317
2	渋谷教育学園幕張高等学校	Ryo Ouchi	316
2	渋谷教育学園幕張高等学校	Rino Komoro	316
4	神戸大学附属中等教育学校	Yura Kanamitsu	313
5	渋谷教育学園渋谷高等学校	Anju Ito	312
5	神戸大学附属中等教育学校	Kie Wakisaka	312
7	筑波大学附属駒場高等学校	Kota Osawa	311
7	神戸大学附属中等教育学校	Koharu Asano	311
9	栄光学園高等学校	MARAKA Ryu	310
9	栄光学園高等学校	MITOMI Hikaru	310
11	栃木県立宇都宮東高等学校	Kin Sachie	309
11	埼玉県立大宮高等学校	Yuina Kondo	309
11	渋谷教育学園渋谷高等学校	Hitoha Negoro	309

11	東京都立富士高等学校	Kakimi Miwa	309
11	栄光学園高等学校	SATO Ryoji	309
11	徳島県立城ノ内中等教育学校	Haruna Tsutsumi	309
17	岩手県立一関第一高等学校	Tsukazawa Rikyo	308
17	栃木県立宇都宮東高等学校	Saito Miharu	308
17	栃木県立宇都宮高等学校	Yuma Saito	308
17	埼玉県立大宮高等学校	Mayu Aono	308
17	渋谷教育学園渋谷高等学校	Ayana Shimada	308
17	東洋英和女学院	Riko Hirose	308
17	長野県屋代高等学校	Ikeda Haruki	308

決勝大会結果:

- 優勝: 渋谷教育学園幕張高等学校
 準優勝: 筑波大学附属駒場高等学校
 3位: 栄光学園高等学校、埼玉県立大宮高等学校
 5位: 広尾学園高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校
 栃木県立宇都宮東高等学校、神戸大学附属中等教育学校

招待ジャッジリスト:

- 1 小野暢思 Mitsushi Ono 審査委員長/慶應義塾大学KDS OB 32 times champion
- 2 齋藤陸 Riku Saito 慶應義塾大学3年、渋谷教育学園渋谷OB 第7回HPDU杯全国大会 優勝・ベストスピーカー、Taylor's Debate Open 2020 Open Best Speaker
- 3 山下雄起 Yuki Yamashita 東大ディベート部(UTDS) Madrid WUDC2023 出場、Asian Bridge 優勝(2nd Best Speaker)
- 4 倉田芽衣 May Kurata 慶應義塾大学ディベート部1年、渋谷ディベート部卒業生 2015年HPDU優勝、2019年QDO準決勝進出、2020年ICUT 2nd Best Adjudicator
- 5 江口花音 Kanon Eguchi SAD OG・東京大学法学部 第11回HPDU杯東京都優勝
- 6 吉田光太郎 Kotaro Yoshida 東京大学ディベート部 ワールズぶれいく
- 7 清水萌絵 Moe Shimizu 渋谷教育学園渋谷高校 SAD卒業生 第11回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯東京都大会優勝、Tsukukoma Schools Open 優勝/ベストスピーカー
- 8 橋本優妃奈 Yukina Hashimoto 慶應義塾大学英語ディベートサークル4年 第7回HPDU杯全国大会3位 EFL Grand Finalist, NEADC 2020 Best adjudicator, Nagoya Debate Open 2020
- 9 Aljohn Bation Debate Coach, CEO/Founder, A+ English Debate and Public Speaking Academy Tournament 1st Best Speaker, 2013 IPDC, Mindanao State University, Philippines; 1st Best Adjudicator, 2014 IPDC, MSU, Phillipines, 4th Best Judge, Vietnam British Parliamentary Debating Championship, Mentor, Vietnam National Television for Education- The Debaters Season 2; Quarter Finalist 6th Visayas-Mindanao Debate Championship; Semi-Finalist; Davao Intersarsity
- 10 水谷友哉 Tomoya Mizutani 東京大学英語ディベート部2年 第9,10回HPDU全国大会優勝, WSDC2021日本代表, 2022春T秋T優勝
- 11 平井優理子 Yuriko Hirai 東京大学英語ディベート部1年、湘南白百合学園高等学校OB JPDU Autumn Tournament 2022 Open Semifinalist, Open 8th Breaking Team, Overall Rookie Best Speaker / Osawa Cup 2022, DCA (Adjudication Core) /Keio Debate Open 2023, Breaking Adjudicator, Open Semifinal Panel /

- 12 渡辺丈 Jo Watanabe 東京大学英語ディベート部2年 JPDU Autumn Tournament 2021 Open Pre-Semi Finalist, Rookie 10th Best Speaker、Nagoya Debate Open 2021 Open Quarter Finalist、Kanto Debate Open 2022 Rookie Champion、JPDU Autumn Tournament 2022 Breaking Adjudicator、The Kansai 2022 Breaking Adjudicator、Momiji Cup 2022 3rd Best Adjudicator、第9回HPDU杯全国大会 Quarter Finalist、第5回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会2019 Quarter Finalist
- 13 中嶋大耀 Hiroaki Nakajima 栄光学園英語部OB 第11回HPDU杯全国大会優勝 / PDA夏合宿2020優勝
- 14 望月雄大 Yuta Mochizuki 東海大学ディベート部OB 藤枝明誠高校教諭 Breaking Adjudicator in 21st ICU Tournament
- 15 森田敢 Kan Morita 大阪大学ディベート部4年 JPDU Spring Tournament 2022 Grand Finalist
- 16 中嶋大耀 Hiroaki Nakajima 栄光学園英語部OB 第11回HPDU杯全国大会優勝 / PDA夏合宿2020優勝
- 17 白鳥優子 Yuko Shiratori 渋谷教育学園渋谷高等学校教諭 JWSDCジャッジ、HPDU杯ジャッジ
- 18 岡村隆聖 Ryusei Okamura 栄光学園英語部OB 第11回HPDU杯全国大会 優勝 (ほか: 第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会 優勝 / PDA全国高校即興型英語ディベート合宿・大会2020 優勝/ 第9回HPDU新緑杯 個人1位)
- 19 木村勇翔 Yuto Kimura 早稲田英語ディベート会 (WAD)1年 Grand Finalist, 8th Linkbate Debating Championship / Open Quarter Finalist (1st Open Break), 2nd Rookie & 5th Open Best Speaker, Umeko Cup 2022
- 20 高橋陶太 Tota Takahashi 東京大学 WUDC 2023 Open Grand Final Judge
- 21 五老映貴 Eiki Goro 東京大学ディベート部(UTDS) 修士1年 JPDU Autumn Tournament 2021 2nd best speaker, JPDU spring Tournament 2022 2nd best judge, JPDU Autumn Tournament 2022 DCA
- 22 禰宜田絵美 Emi Negita 東京大学ディベート部2年 NEADC 2022: Breaking adjudicator, JPDU Autumn Tournament 2022: Breaking adjudicator, Momiji Cup 2023: Best Adjudicator, Keio Debate Open 2023: Deputy Chief Adjudicator, Umeko Cup 2021: Champion, Open Grand Final Best Speaker, Evergreen cup 2022: Open Semi Finalist
- 23 岩井玲子 Iwai Reiko 愛知県立半田高等学校教諭 HPDU杯ジャッジ
- 24 久保大輔 Daisuke Kubo 近畿大学ディベート部OB The Kansai Semi Finalist 2015, 2020 Winner of BP novice West 2015, 2016 NEAO EFL Quarter Finalist 2016 Japan BP Quarter Finalist 2017 ICUT Quarter Finalist 2018 Golden Cup Grand Finalist 2018, 2019
- 25 ライメルビン Melvin Lai 東洋英和女学院 教諭 HPDU杯ジャッジ
- 26 鈴木エリン Suzuki Erin 翔凜高等学校教諭 HPDUなど、高校生、大学生大会ジャッジ・出場
- 27 瀧澤誓 Sei Takizawa ICU/UT DS Alumni 25th JPDU Tournament Champion, 2022 The Kansai Grand Finalist
- 28 難波慧 Kei Namba Waseda Association of Debaters 16期 (早稲田大学1年) 19th Elizabeth Cup 2nd Best Team, Rookie Best Speaker, Experienced Best Speaker; K-Cup 2022 Best Team, Best Speaker; Umeko Cup 2022 Open Quarter Finalist, Open 2nd Best Speaker; Momiji Cup 2022 Open Grand Finalist, Open 4th Best Speaker; 8th Linkbate Debating Championship 2023 Open Grand Finalist, 7th Best Speaker; Japan BP 2022 Grand Finalist, Open 7th Best Speaker, Novice Best Speaker; Tokyo Mini 2022 Grand Finalist, Rookie 2nd Best Speaker; Asian Bridge 2023 Open Grand Finalist, Open Best Speaker; KK-Cup 2023 Champion, Grand Finals Best Speaker, Open 4th Best Speaker;
- 29 堀口陽平 Yohei Horiguchi 慶應義塾大学ディベートサークル (KDS) 4年 WUDC2021 ESL Quarter Finalist
- 30 綾部功 Isao Ayabe 東海大学教授 東工大杯優勝 (2006) 、ESUJ社会人英語ディベート大会優勝

(2014年他)

31 三木一優 Kazumasa Miki 三田国際学園中学校高等学校教諭 【As a debater】KDO 2023 Open Grand Finalist, Japan BP 2015 Quarter Finalist, NEAO 2012 Pre-Quarter Finalist... 【As a judge】AWSDO 2021 5th Best adjudicator, Japan BP 2016 5th Best Adjudicator...

32 後田壯 So Ushiroda KDS4年 ・NEADC 2020, EFL Grand Finalist ・Sydney mini 2020, ESL 3rd Best Speaker ・Nagoya Debate Open 2021, Open Grand Finalist ・Taylor's Debate Open 2021, Open 10th Break, Open pre-Quarter Finalist ・Japan BP 2021, Open Grand Finalist, 8th Best Speaker

33 酒主維吹 Ibuki Sakanushi 作新学院高等学校教諭

他2名 計35名

ボランティア：運営委員16名、他に大学生17名、社会人18名【合計】51名

HPDU役員以外の運営委員：神埼花南、杉本絢香、高桑文子、吉野舞起子、藤野こころ、飯田匡、岩崎志帆、宮原万結子、北原璃莉奈、濱野綾音

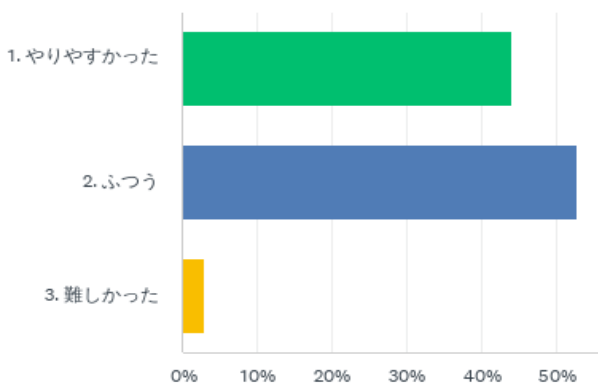
各種教育奨励賞：

- 1) ESUJ 賞：優勝チームのディベーター1名につき教育奨励金として10万円贈呈。総額30万円。
- 2) あずさ監査法人賞：参加者全員にパラメンタリーディベート練習用テキストを贈呈。
- 3) 日本英語検定協会賞：予選ベストスピーカー賞受賞生徒、決勝トーナメント出場校に図書カードを贈呈。
- 4) 日本フィルハーモニー交響楽団賞：上位4チームにコンサートチケットと音楽CDを贈呈。
- 5) キヤノン賞：優勝チームにデジタルカメラとSDカードを贈呈。
- 6) キヤノンマーケティングジャパン賞：準優勝チームにスマホ専用ミニフォトプリンターを贈呈。
- 7) アルク賞：予選大会ベスト16以上のチームに書籍を贈呈。

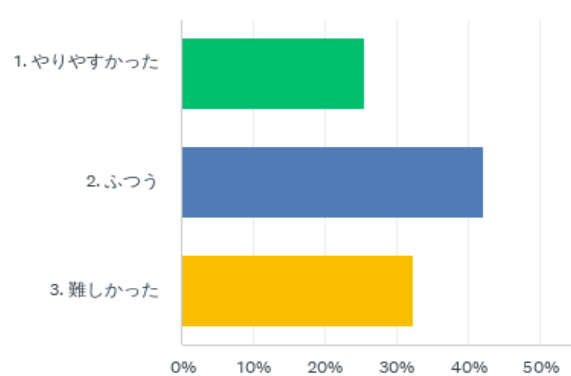
■ 第12回 連盟杯 (2023年3月) 参加者アンケート (回答総数 102)

[A] 試合の論題はどうでしたか

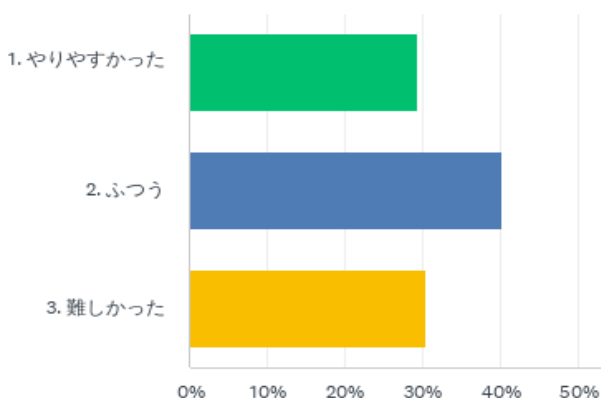
Round 1



Round 2



Round 3



Round 4

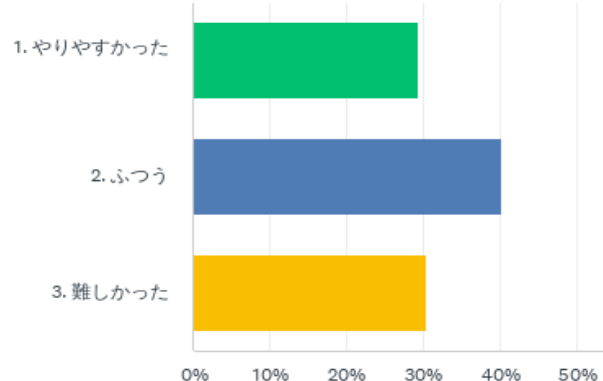
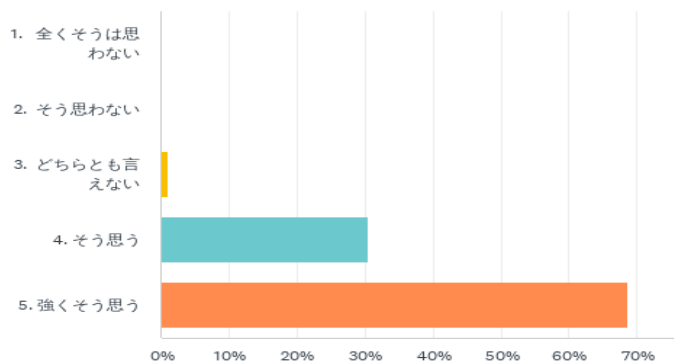


表 A 予選4試合の論題の難しさについて

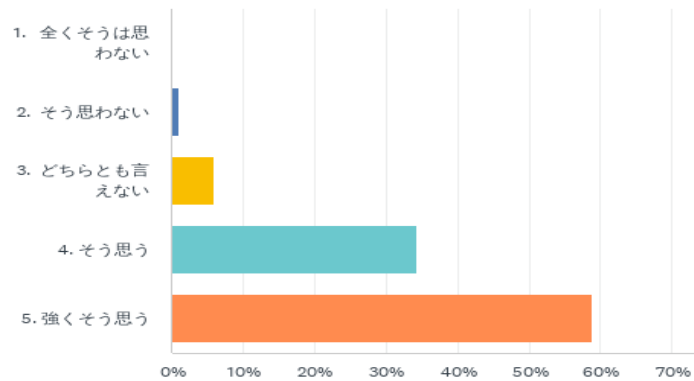
	Round 1		Round 2		Round 3		Round 4	
1. やりやすかった	43.7%	45	25.2%	26	7.8%	8	29.1%	30
2. ふつう	53.4%	55	41.8%	43	9.7%	10	39.8%	41
3. 難しかった	2.9%	3	33.0%	34	82.6%	85	31.1%	32

[B] この大会を通してよかったことは何ですか。

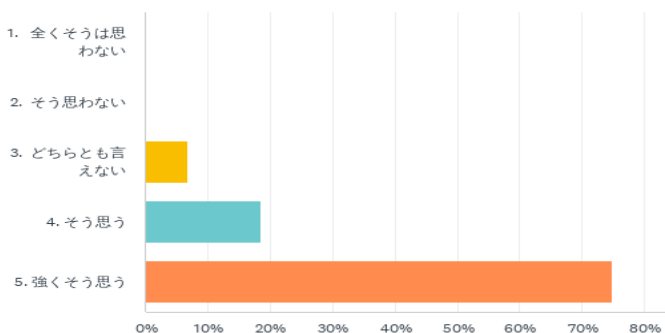
(ア) ディベートをする機会があったこと



(イ) ジャッジの講評が参考になったこと



(ウ) 他校の生徒を見て励みになったこと



(エ)

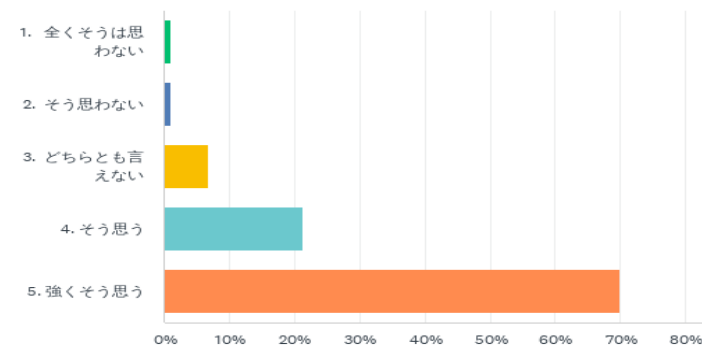


表 B この大会を通して良かったこと

	(ア) ディベートをする機会があったこと		(イ) ジャッジの講評が参考になったこと		(ウ) 他校の生徒を見て励みになったこと		(エ) 他校の生徒を見て励みになったこと	
1. 全くそうは思わない	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	1.0%	1
2. そう思わない	0.0%	0	1.0%	1	0.0%	0	1.0%	1
3. どちらとも言えない	1.0%	1	5.8%	6	6.8%	7	6.8%	7
4. そう思う	30.1%	31	35.0%	36	18.5%	19	21.4%	22
5. 強くそう思う	68.9%	71	58.3%	60	74.8%	77	69.9%	72

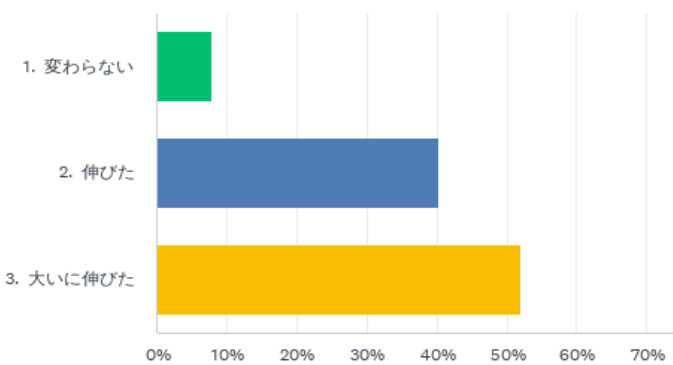
【ここまでの質問に関する自由記述回答】

- ・ 模範ディベートが素晴らしい
- ・ 小旅行的な感覚が楽しかった
- ・ いろんな高校のディベートレベルがしれたこと
- ・ オンラインでしか会えなかったディベーターに対面で会えたこと
- ・ ジャッジの評点基準が一致できず、公平度に影響したと思います。また、tabulation system により同じジャッジ 2 回当たってしまい、パフォーマンスと subjectivity に影響を与えたと思います。

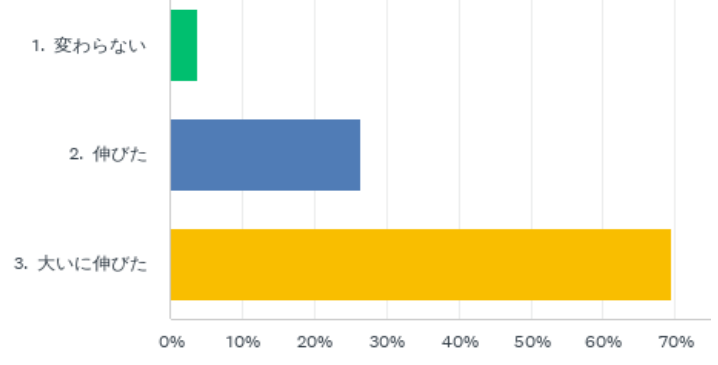
- ・泊まれたこと！
- ・ありがとうございました！
- ・モデルディベートを見れたこと。レクチャーを受けれたこと。
- ・生徒だけでなく ESUJ の方々などにお話を聞かせてもらう機会もあったこと
- ・ディベートを純粋に楽しめる空気があったこと。勝って嬉しく負けて悔しく学びある雰囲気。
- ・HPDU 連盟杯に出場することを目標にしてきたチームなど取り組み方は様々だが、どんな形でもそれぞれが楽しめるのがディベートの良さだと感じられた。またトップレベルのチームのディベートやモデルディベート、セミナーから技術的な改善点や目標とすべきものを実際に感じる事ができたのが良かった。
- ・準々決勝の論題が純粋なディベーターとしての実力を問われるもので、改めてディベートをしたいと痛感しました。
- ・練習や実際の試合を通して仲間との絆が深まったこと。
- ・埼玉県の枠はもっと多くてもいいと思います

[C] Parliamentary Debate を通してどの様な力が伸びたと思いますか

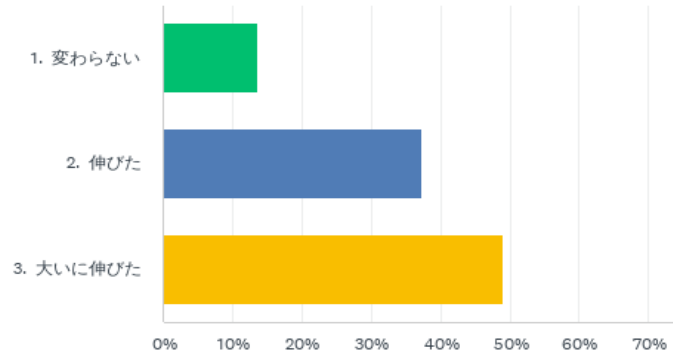
(ア) 知識・教養



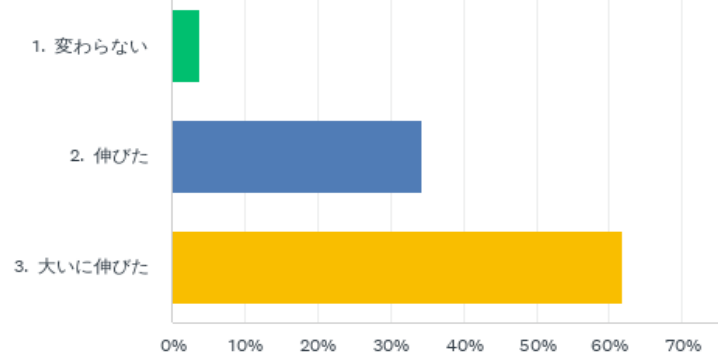
(イ) 英語で発表する力



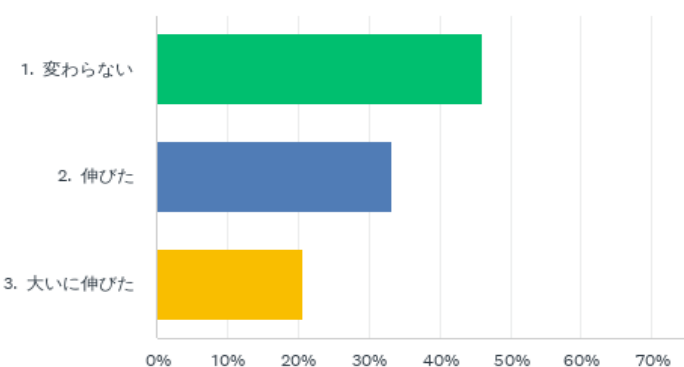
(ウ) 英語を聞く力



(エ) 論理的思考



(オ) 英語の文法力



(カ) 英語の語彙力

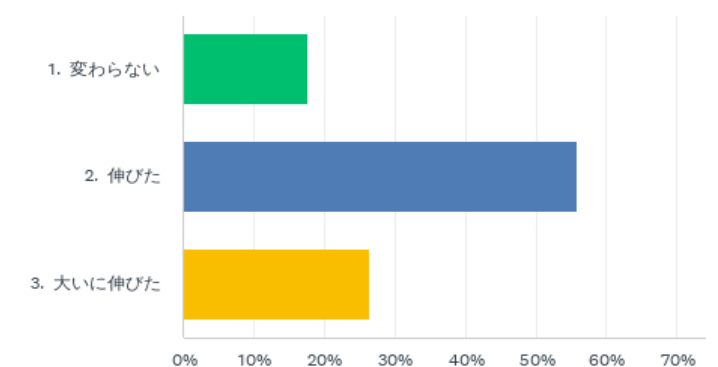
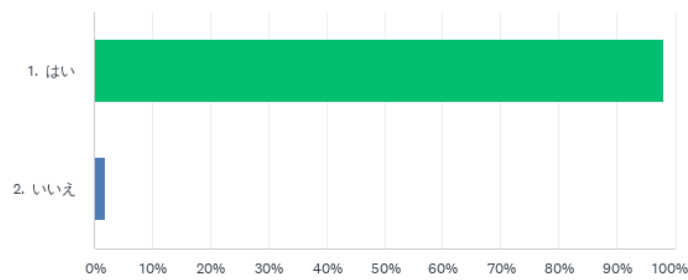
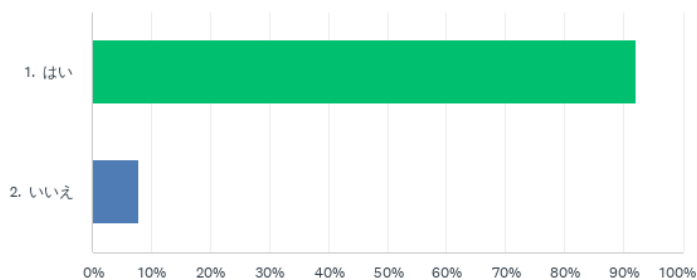


表 C Parliamentary Debate を通してどの様な力が伸びたと思いますか

	(ア)知識・教養	(イ)英語で発表する力	(ウ)英語を聞く力	(エ)論理的思考	(オ)英語の文法力	(カ)英語の語彙力
1. 変わらない	7.8% 8	3.9% 4	13.8% 14	3.9% 4	46.1% 47	17.7% 18
2. 伸びた	40.2% 41	26.5% 27	37.3% 38	34.3% 35	33.3% 34	55.9% 57
3. 大いに伸びた	52.0% 53	69.6% 71	49.0% 50	61.8% 63	20.6% 21	26.5% 27

[D] 即興型ディベート(Parliamentary Debate) について

(ア) Parliamentary Debate は、大学受験に役に立つ (イ) Parliamentary Debate は、将来役立つと思いますか？



(ウ) Parliamentary Debate を授業でもやりたいと思いますか？

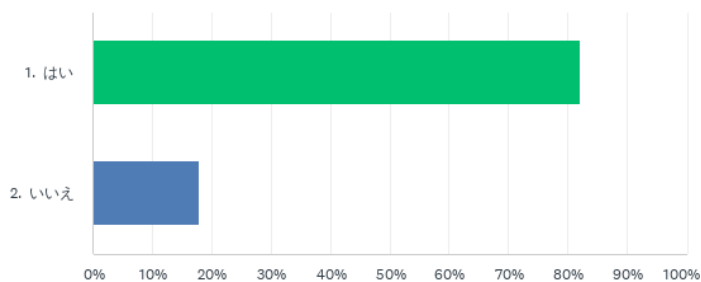


表 D 即興型ディベートについて

	(ア)Parliamentary Debate は大学 受験に役立つと思いますか	(イ)Parliamentary Debate は将来 役立つと思いますか。	(ウ) Parliamentary Debate を授業で もやりたいと思いますか・
1. はい	92.1% 93	98.0% 99	82.2% 83
2. いいえ	7.9% 8	2.0% 2	17.8% 18

[E] 全体に関して

(ア) 総合的に見て、この大会にどの程度ご満足いただけましたか？ (イ)この大会参加を、部活の後輩などに勧めたいと思いますか？

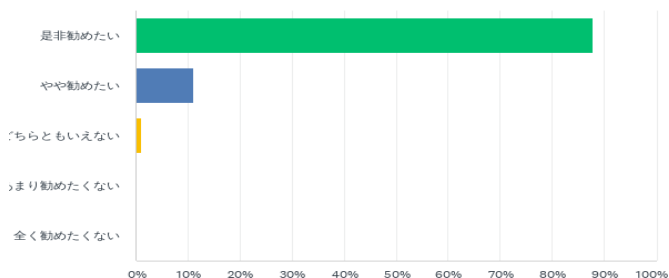
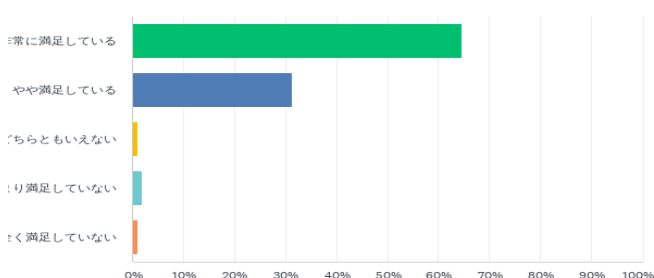


表 E 全体に関して

	(ア)総合的に見て、この大会にどの程度ご満足いただけましたか？	(イ)この大会参加を、部活の後輩などに勧めたいと思いますか？
1. 非常に満足している	64.7% 64	87.9% 87
2. やや満足している	31.3% 31	11.1% 11
3. どちらとも言えない	1.0% 1	1.0% 1
4. あまり満足していない	2.0% 2	0.0% 0
5. 全く満足していない	1.0% 1	0.0% 0

【ここまでの質問に関する自由記述回答】

- ・試合ごとのスピーカーポイントを知ることはできますか？ よろしくをお願いします"
- ・すごく運営がスムーズでした！
- ・日本語ディベートと比べて専門性、具体性が少ないと思いました。また議論のレベルが実際に活用できるレベルのものなのか、もしそうならば活用できる場が欲しいと思いました。また公立私立両方の学校が参加しているため、ある程度の環境の差による能力の差があるのだと実感しました。ですが、これらのことを踏まえても同じ高校生で、これだけ英語がしゃべれる人がいると、知れたことの驚きや、他校の人と関わる機会を設けてくださった運営の方々にはとても感謝しています。ありがとうございました。またぜひ参加したいです。
- ・Screen in room 417 is so old that many people couldn't see clearly. If it's possible, please renew it in order to make next competition more smoothly.
- ・貴重な経験ができました。ありがとうございました。
- ・本当に充実してこれ以上ないくらい楽しい3日間でした。ありがとうございました！
- ・生徒の話すスピードが速すぎる。特に強豪校。あれほど速く話す必要があるのでしょうか？決勝戦も全く理解できませんでした。自分の英語力不足かもしれませんが、どれくらいの割合の生徒、教員が理解できたのか気になります。
- ・寮 A 棟の 4 階 480~の部屋にあるシャワー室の真ん中のシャワーのホースに穴が空いてました。シャワーから水を出すと隣の人にかかって迷惑になったので、できる限り早く修理してほしいです。
- ・モーションテストを行い、勝敗が gov 100% opp 0% みたいなことが起こらないようにして頂きたいです。本戦で勝ち進めるかがじゃんけんの運になってしまい、引退試合である本大会で今まで積み重ねてきたことが全てパーになります。高校生活は一度しかないのも、後輩も悲しい経験をしないよう来年からは徹底して頂きたいです。
- ・あくまでも高校生の大会なので、モーションへの配慮、ジャッジアロケーションへの配慮(ハイラウンドにどういうジャッジを配分すべきか)、所属の高校を代表する全国大会なので考えて欲しいです。
- ・運営の先生方、ジャッジして下さった方々、本当にありがとうございました。
- ・次のラウンドに活かさないのも教育的観点からサイレントラウンドはやめてほしいと思いました。スピーカーポイントは運で決まる部分が相当あるので、スピーカーポイントで3勝のチームを決勝トーナメントに出場できなくするのは気の毒なので対戦相手の強さなどを含んだアルゴリズムを導入するか、16 チームをブレイクさせて3-1のチームが必ずブレイクできるようにするか、もしくは初日を五ラウンドにして一度負けただけでブレイク落ちしないようにしてほしいです。
- ・運営ありがとうございましたとても楽しかったです
- ・ユニットでの宿泊で、真夜中までおしゃべりが聞こえたり、早朝4時半ごろにアラームが鳴って起こされたり…たいへんでした…😓💕

- ・準備など、とても大変だったと思いますが、オフラインで全国大会ができたこと、心から嬉しく思います。これまでオンラインで練習試合をしていた学校と直接会って話すことができ、また、今まで YouTube で見てきた決勝戦を実際に自分の目で見ることができ、迫力があって、勇気を貰えて、とても満足しています。このような機会を作っていただき、本当にありがとうございました。ただ1つ要望があるとすれば、入浴時間をもっと長くしてほしいです。学校ごとに入ったのですが、6~7校が2時間半弱で入るのは、かなり厳しかったです。尚且つシャワーのホースに穴が空いていたため、かなり大変でした。後輩たちのためにも、検討をよろしくお願いします。
- ・とても充実した時間を過ごすことができました。ディベートたくさんできる環境で3日間、全国の高校生から刺激を受けながら過ごすことができとても幸せな時間でした。ありがとうございました。
- ・全ての体験が刺激的で有意義で楽しくて、とても記憶に残る3日間でした
- ・オフラインの大会であったため他校との交流の機会がたくさんあり楽しめました。
- ・特に宿泊時や食事の時間で交流ができました。
- ・運営の皆様、本当にありがとうございました。対面でしか得られえなかった様々なものは生涯の宝になるはずです。今回でディベートを引退して競技でやるつもりはありませんでしたが、大学でもやってみようかと思っています。本当に楽しかったです。
- ・オフライン試合での全国大会ということで、ディベート名門校の方との交流やスーパージャッジからのコメントを直接いただけたことが本当に良い機会でした。ありがとうございました。
- ・大会の集合場所で音楽が鳴っていたのはとても新鮮で、大会を楽しめた
- ・今回は参加校のなかったような都道府県でも英語ディベートが広まり、いつかは全都道府県の代表が集うような大会になって欲しい！
- ・本当に貴重な体験でした！友達も増えたので良かった！！"
- ・とても楽しい大会をありがとうございました！
- ・大会を運営してくださった皆さん、ありがとうございました。
- ・運営、ジャッジの皆様、本当にありがとうございました！
- ・是非埼玉にもっと枠を！
- ・すごく貴重な体験ができました。ボランティアの方や運営してくださった方々、先生、仲間に感謝したいです。
- ・現役生にジャッジとして帰ってくるようにアナウンスしましょう！彼らならきっと帰ってきてくれるはず！そして誰よりもディベートの情熱を下の世代に伝えてくれるはず！
- ・対面大会は本当に素晴らしいと思う。仲間と常に行動するので自然と身体的にも心理的にも距離が近くなる。単純にプレパがしやすいだけでなく人の感情が直に伝わってくるしその感情や思いを共有できる。また、いろんな学校の生徒や顧問とのコミュニケーションも良い。直接会っているわけだから話しやすいし、会話に混ざってきてさらに多くの人とお話できる。その時間もとても楽しかった。
- ・HPDUのみなさん、ディベート大会を開催してくださり、そして対面での実施に尽力してくださり本当にありがとうございました。"
- ・今までの大会の全てがオンラインで、最初で最後のオフラインでの大会でした。全国のディベーターと対面でお話できたり、ディベートできたり、オフラインならではの緊張感だったり、何もかもが新鮮で、貴重な体験でした。久々の対面での大会で、まだ若干コロナも残る中での大会で、ジャッジの方々や運営の方々のご協力があってこそその大会だったと思います。本当にありがとうございました！

(6) 第12回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 東日本大会

HPDU Spring Greenery Competition of East Japan 2023

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、株式会社トモノカイ

日時：2023年6月18日（日）8：30～17：30

場所：オンライン Zoom、LINE にて実施

参加費：1チームにつき3,000円（各学校から参加申込チーム数は最大で3チームまで。）

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）経験者が新人ディベーターを育成する機会を提供する。

（3）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

（4）高校教員のジャッジ養成の機会を提供する。

参加資格：（1）日本に住所がある高校に在学している1学年から3年生までの生徒（留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む）。

（2）第12回新緑杯東日本大会、第4回新芽杯に参加していない学校の生徒。

（3）1チームにつき1名のジャッジ派遣

試合形式：（1）試合：ノースアメリカン・スタイル [7分、7分、7分、7分、4分、4分]

（Constructive speech が4分で、Reply speech が3分）。論題発表から試合開始までの準備時間は20分間。4試合（2試合以降はパワーペアリング）。

（2）4試合（2試合目以降はパワーペアリング）パワーペアリングを優先するため、肯定側と否定側のバランスが取れない場合があります。

（3）得点ポイントの高かったチーム、経験者ディベーター、新人ディベーターを表彰。

チーム構成の条件：

（1）チームの登録人数は3人。チーム内には必ず新人ディベーターが1人は含まれていること。新人ディベーターとは、パラメンタリーディベート公式戦での試合経験がないか、おおよそ10ヵ月未満の生徒を指します。

（2）同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

日程：8：30～ 8：45 受付

8：45～ 9：15 開会式

9：15～ 9：25 第1試合 対戦表、論題発表

9：25～10：45 準備（20分間）、試合

11：10～11：20 第2試合 対戦表、論題発表

11：20～12：40 準備（20分間）、試合

12：40～13：15 昼食

13：15～13：25 第3試合 対戦表、論題発表

13：25～14：45 準備（20分間）、試合

15：10～15：20 第4試合 対戦表、論題発表

15：20～16：40 準備（20分間）、試合

17：00～ 表彰・閉会式

各スピーチの採点方法

本年度の大会では、個人得点は、以下の基準に基づいて与えられます。派遣ジャッジの方は大会前に把握しておいてください。その試合全体の質、また最終的な勝敗を決めるにあたって、貢献度の高かった順に1位～6位を割り振ります

(1) 各試合でのスピーカーの順位を、得点に変換して個人得点とします。

1位⇒6点 2位⇒5点 3位⇒4点 4位⇒3点 5位⇒2点 6位⇒1点

(2) 同じ順位を複数名に与えることはありません。

(3) 今回は貢献の度合いによる順位になりますので、個人得点のチーム総点は、勝利チームの方を必ず高くします。(つまり「low-winを認めない」ということです)。

(4) 順位を決めるにあたって、複数名の選手の優劣を決め難い場合、この要項末に例年の新緑杯の個人スコアのつけ方を掲載してありますので、参考にしてください。

表彰に関して

(1) チーム成績は、試合の勝ち数、個人得点の合計の順の合計点で決定します。

(2) 個人成績は、個人得点の累計で出します。

(3) 表彰などで順位を確定させる必要がある場合、勝ち数が同じ、そして個人得点の総点と同じチームがあった際は、以下の様にして最終的な順位を決定します。

・予選4試合のそれぞれが対戦した相手チームの勝数の合計

・上記の合計が同じ場合は、それぞれが対戦した相手チームの個人得点の合計

参加校：26校 48チーム 144名

栃木県 作新学院高校(2チーム) 栃木県立宇都宮高校(3チーム)

東京都 広尾学園高校(3チーム) 三田国際学園高校(3チーム) 山崎学園富士見高校(1チーム)

渋谷教育学園渋谷高校(1チーム) 成蹊高校(1チーム) 早稲田大学高院(1チーム)

筑波大学附属駒場高校(2チーム) 東京学芸大学附属高校(1チーム)

豊島岡女子学園高校(1チーム)

千葉県 渋谷教育学園幕張高校(3チーム) 翔凜高等学校(3チーム)

神奈川県 栄光学園高校(1チーム) 桐光学園高校(1チーム) 湘南白百合学園高校(1チーム)

神奈川県立相模原高校(3チーム) 聖光学院(3チーム) 洗足学園中学高校(2チーム)

浅野高等学校(1チーム)

埼玉県 市立浦和高校(3チーム) 埼玉県立浦和高校(1チーム) 埼玉県立大宮高校(3チーム)

沖縄県 角川ドワンゴ学園N高校(1チーム)

茨城県 日立第一高校(2チーム)

愛知県 南山高等学校女子部(1チーム)

Motions(論題)：

Round 1: This House believes that film versions are never as good as the original books.

Round 2: This House believes that community service is a better punishment than prison for non-violent crimes.

Round 3: This House supports countries offering citizenship based on sporting ability.

Round 4: This House believes that seventy years on, the United Nations is a disappointment.

試合結果：チーム順位

優勝 浅野高等学校準優勝 さいたま市立浦和高等学校A

3位 翔凜高等学校A

4位 広尾学園高等学校A、渋谷教育学園幕張高等学校A、日立第一高等学校B

- 7 位 聖光学院A、聖光学院B
 9 位 洗足学園中学高等学校A
 10位 広尾学園高等学校B

【ベストスピーカー賞・経験者】

- | | | |
|-----|--------------|---------------|
| 1 位 | 渋谷教育学園渋谷高等学校 | Yuta Sato |
| | 翔凜高等学校 | Jing Wang |
| | 聖光学院 | Kei Fukiage |
| | さいたま市立浦和高等学校 | Rena Muronaga |
| 5 位 | 作新学院高等学校 | Shunta Koike |
| | 栃木県立宇都宮高等学校 | Shunya Sasaki |
| | 渋谷教育学園幕張高等学校 | Tsuzuki Lea |
| | 浅野高等学校 | Natsuki Mogi |

【ベストスピーカー賞・初心者】

- | | | |
|-----|---------------|------------------|
| 1 位 | 聖光学院 | Kantaro Ishida |
| 2 位 | 三田国際学園高等学校 | Shunwa Takayama |
| | 日立第一高等学校 | Mutsumi Ishikawa |
| 4 位 | 埼玉県立大宮高等学校 | Shoka Morita |
| | 角川ドワンゴ学園N高等学校 | Ayako Irita |

ボランティア：運営委員5名、高校生25名【合計】30名

HPDU役員以外の運営委員：生沼優奈、永峯凜、堀之内菜月、増川碧、栗田悠生、日高広実、山川こころ、石川希美、青木帆希、飯田翔大、川嶋琉那、白鳥陽大、市岡結菜、小川勇彦、久世真生、白須花音、新藤水桜、荒木結衣、川田真穂、野津桜香、宇高帆乃花、太田葵、小倉彩奈、高島菜由、武政柚香

(7) 第12回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新緑杯 西日本大会

HPDU Spring Greenery Competition of West Japan 2023

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、株式会社トモノカイ

日時：2023年6月18日（日）8：00～16：30

場所：オンライン Zoom、LINEにて実施

参加費：1チームにつき3,000円（各学校から参加申込チーム数は最大で3チームまで。）

主旨：（1）パラメンタリーディベートを通して高校生の総合的英語運用能力を伸ばす。

（2）経験者が新人ディベーターを育成する機会の提供。

（3）様々な社会問題に興味関心を持つ態度を養う。

（4）高校教員のジャッジ養成。

参加資格：（1）日本に住所がある高校に在学している1学年から3学生までの生徒(留学生、帰国生徒、外国籍の生徒も含む)。

（2）第12回新緑杯東日本大会、第4回新芽杯に参加していない学校の生徒。

（3）1チームにつき1名のジャッジ派遣

試合形式：ノースアメリカン・スタイル [7分、7分、7分、7分、4分、4分] (Constructive speech が7分)

で、Reply speech が 4 分)。論題発表から試合開始までの準備時間は 20 分間。4 試合(2 試合以降は パワーペアリング)。

チーム構成の条件：

- (1) チームの登録人数は 3 人。チーム内には必ず新人ディベーターが 1 人は含まれていること。新人ディベーターとは、1 年生またはパラメンタリーディベート公式大会に参加したことがない 2、3 年生を指します。
- (2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外とします。

日程：8：00～ 8：15 受付
8：15～ 8：35 開会式
8：35～ 8：45 第1試合 対戦表、論題発表
8：45～10：15 準備(20分間)、試合
10：30～10：40 第2試合 対戦表、論題発表
10：40～12：10 準備(20分間)、試合
12：10～12：10 昼食
12：40～12：50 第3試合 対戦表、論題発表
12：50～14：20 準備(20分間)、試合
14：35～14：45 第4試合 対戦表、論題発表
14：45～16：15 準備(20分間)、試合
16：20～16：30 表彰・閉会式

参加校：8校、15チーム、45名

富山県 富山国際大学附属高等学校
福井県 福井県立藤島高等学校
京都府 京都府立洛北高等学校
兵庫県 神戸大学附属中等教育学校
徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校
鹿児島県 鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立鹿児島中央高等学校、ラ・サール高等学校

Motions(論題)：

Round 1: This house would give more votes to citizens according to their performance on a current affairs test.

Round 2: This house believes that governments in developing countries should limit migration to megacities.

Info : A megacity is a very large city, typically with a population of more than 10 million people.

Round 3: This house, as a large company, should reflect the racial diversity of the national population in employee diversity.

Round 4: This house would allow the police full and unrestricted access to social media.

試合結果：チーム順位

優勝 福井県立藤島高等学校 A
準優勝 神戸大学附属中等教育学校 A
3位 徳島県立城ノ内中等教育学校、神戸大学附属中等教育学校 B
5位 神戸大学附属中等教育学校 C

ベストスピーカー賞 経験者＋新人

- 1位 福井県立藤島高等学校A 島一織
- 2位 神戸大学附属中等教育学校C 中山まり乃
- 3位 福井県立藤島高等学校C 柴田和慶、4位 徳島県立城ノ内中等教育学校 堤遥菜、
- 5位 福井県立藤島高等学校B 河井駿佑、神戸大学附属中等教育学校A 吉永信美、
- 7位 鹿児島県立鶴丸高等学校A 助田梨里香、神戸大学附属中等教育学校B 鈴木葉瑠子、
ラ・サール高等学校 甲斐徹平
- 10位 鹿児島県立鶴丸高等学校B 中間優凜、福井県立藤島高等学校A 奥村一輝、
福井県立藤島高等学校B 中嶋駿、神戸大学附属中等教育学校A 恵納質早、神戸大学附属
中等教育学校A 松浦茅南

ベストスピーカー賞 新人

- 1位 神戸大学附属中等教育学校A 吉永信美
- 2位 神戸大学附属中等教育学校B 鈴木葉瑠子、ラ・サール高等学校 甲斐徹平
- 4位 鹿児島県立鶴丸高等学校B 中嶋駿
- 5位 鹿児島県立鶴丸高等学校C 橋口ゆかり

運営役員一覧

【実行委員長(TD)】三仙真也(藤島)

【副実行委員長(VTD)】和泉太輔(城ノ内) 大賀哲(九州大学)

【広報(MD)】久保真大郎(広島学院)

【コミュニケーション CD】泉美穂(神戸大学附属) 田村駿(相生)

【総務(TC)】三仙真也(藤島) 山田樹生子(岡山大安寺)

【財務(FD)】大賀哲(九州大学)

【タブ(Tab)】大賀哲(九州大学) 山田慎太郎(香住丘) 古田啓(岡山朝日) 高野里紗(熊本県立教育センター)

【審査委員(AC)】木下和生(報徳学園) 古田啓(岡山朝日) 高野里紗(熊本県立教育センター) 橋田信(須崎総合)

(8) 第4回 高校生英語パラメンタリーディベート連盟 新芽杯

HPDU Sprout Cup 2023

主催：一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟

後援：公益財団法人 日本英語検定協会、一般社団法人 日本英語交流連盟

協賛：有限責任 あずさ監査法人

協力：iae グローバルジャパン株式会社、エイムネクスト株式会社、株式会社オールアバウト、株式会社トモノカイ

日時：2022年6月12日(日) 8:30~17:30

場所：オンライン Zoom、SLACK にて実施

参加費：1チームにつき 3,000 円

- 主旨：(1) 総合的英語運用能力向上に有効であるパラメンタリーディベートのルールや技を学ぶ。
(2) 大会出場経験が少ない高校生たちに対外試合の機会を与える。
(3) 身近な問題や社会の問題について論理的で説得力のあるスピーチを即興でできる力を伸ばす。
(4) 高校教員のジャッジ養成。

試合形式：試合：ノースアメリカンスタイル(4分、4分、4分、4分、3分、3分)

1チーム3名、3試合(2・3試合はパワーペアリング)、準備時間は30分とする。

参加資格：(1) 日本に住所がある高校に在学している1学年から3学生までの生徒(留学生、帰国

生徒、外国籍の生徒も含みます)。

(2) 第 11 回新緑杯に参加していない学校の生徒。学校として新緑杯、新芽杯いずれか 1 つの大会に参加して頂くことになります。

(3) 1 チームにつき 1 名のジャッジ派遣

チーム構成の条件：

(1) チームの人数は 3 ～ 5 名(1 試合に出場するのは 3 人だが、試合ごとに選手入替可能)。ただし、各試合には必ず 1 人以上の新人ディベーターが選手として参加すること。新人ディベーターとは、1 年生、またはパラメンタリーディベートの公式大会に参加したことがない 2、3 年生を指します。

(2) 同一校のチームの参加とします。ただし、英会話スクールなど HPDU が認めた高等学校以外の団体は例外。

日程：8：30～ 8：45 受付
8：45～ 9：15 開会式
9：15～ 9：25 第 1 試合 対戦表、論題発表
9：25～10：45 準備 (30 分間)、試合
11：10～11：20 第 2 試合 対戦表、論題発表
11：20～12：40 準備 (30 分間)、試合
12：40～13：15 昼食
13：15～13：25 第 3 試合 対戦表、論題発表
13：25～14：45 準備 (30 分間)、試合
15：45～ 表彰・閉会式

参加校：40 校、56 チーム、202 名

愛知県 東海高等学校、愛知県立千種高等学校、愛知県立昭和高等学校

茨城県 並木中等教育学校、茨城県立竹園高等学校、東洋大学附属牛久高等学校

大阪府 常翔学園高等学校

鹿児島県 鹿児島中央高校

神奈川県 栄光学園高等学校、神奈川県立相模原高等学校、桐光学園高等学校、カリタス女子高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立多摩高等学校、湘南高等学校、

熊本県 熊本県立熊本高等学校

群馬県 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

埼玉県 埼玉県立大宮高等学校

静岡県 常葉大学附属橘高等学校

千葉県 千葉県立松戸国際高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校

東京都 東京都立千早高等学校、山崎学園 富士見高等学校、攻玉社高等学校、東京都立三田高等学校、獨協中学高等学校、東京都立両国高等学校、ECC ジュニア東京練習会、創価高等学校、東京都立田柄高等学校、東洋高等学校、早稲田大学高等学院

徳島県 徳島県立富岡西高等学校

兵庫県 神戸市立葺合高等学校

福岡県 福岡雙葉中学・高等学校

北海道 旭丘高校

山梨県 甲府西高等学校

Motions(論題) :

Round 1: To compensate for the school days lost due to the COVID-19 pandemic, this House believes that the high school summer holiday this year should be half as long.

「コロナ禍で失われた学校の日数を補うために、本院は、今年の高校の夏休みは半分の長さになるべきだと信じる」

Round 2: Assuming COVID-19 is over, this House believes that traveling abroad is better than domestic travel for your honeymoon.

「コロナ禍は終わっていると前提して、本院は新婚旅行には国内旅行より海外旅行がより良いと信じる」

Round 3: This House believes that women should be given two votes in local and national elections.

「本院は、地方そして国政選挙で女性は2票を与えられるべきと信じる」

試合結果：優勝：埼玉県立大宮高等学校 A 準優勝：渋谷教育学園幕張高等学校 B

3位：栄光学園高等学校 B、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 5位：栄光学園高等学校 A

7位：カリタス女子高等学校 B、渋谷教育学園幕張高等学校

ボランティア：運営委員4名、高校生5名【合計】9名

HPDU役員以外の運営委員：伊藤杏珠、漆原奏江、島田絢菜、根来一葉、古田和香奈

(9) 理事・役員によるディベート普及活動

北原理事長

- ・2022年8月10日 令和4年度ユネスコスクール定期レビュー研修会にて実践発表
- ・2022年8月17日 コムネット教育総合研究所「G-Edu」による取材
- ・2023年1月22日 第14回ユネスコスクール全国大会/ESD研究大会にて実践発表
- ・2023年3月27日 読売新聞東京本社による取材(教育ネットワークHP用記事執筆のため)
- ・2023年6月8日 「進学通信8月号」による取材
- ・2023年6月30日 令和5年度WWL・SGH連携協議会にてディベート大会の紹介

小林理事

- ・過年度より継続 東京書籍 高等学校外国語科用 文科省検定教科書「論理・表現Ⅲ」編集委員(主に英語ディベートに関して編集・助言)
- ・2022年7月22日「ディベートと議論教育・ディベート教育国際研究会論集 第4巻」にて英語ディベート関連の研究論文を掲載(査読付き)
- ・2022年8月3日 日本英語交流連盟(ESUJ)主催、英語ディベートワークショップ「英語ディベート指導者用・初級」の講師
- ・2022年8月6日「全国英語教育学会第47回北海道研究大会」にて英語ディベート関連の口頭発表
- ・2022年12月10日「関東甲信越英語教育学会 第46回栃木研究大会(オンライン)」にて英語ディベート関連の口頭発表
- ・2022年12月19日 横浜国立大学・教育学部授業「英語科教育法Ⅱ」内にて、講師として英語ディベートの指導実演
- ・2023年1月6日 日本英語交流連盟(ESUJ)主催、英語ディベートワークショップ「英語ディベート指導者用・中級」の講師
- ・2023年1月12日 東京学芸大学・教職大学院授業「英語科の実践演習Ⅱ」にて、講師として英語ディベートの指導実践
- ・2023年3月11日「第9回ディベート教育国際研究会大会」にて英語ディベート関連の口頭発表

- ・2023年5月31日「ディベートと議論教育・ディベート教育国際研究会論集 第5巻」にて英語ディベート関連の研究論文を掲載（査読付き）

浜野理事

- ・2021年7月20日 Benesse English Seminar -新教育課程で育成すべき力と大学入試で問われる力の指導と評価を考える- パネリスト
- ・2021年7月29日 さいたま市初任者教員研修講師（さいたま市教育研究所）
- ・2022年2月4日 テレビ埼玉 高校生応援企画「アオハルのむこうがわ」生放送
- ・2022年3月25日 茨城県英語4技能指導法グループ研究会「即興ディベート授業への導入指導について」講師
- ・2022年3月14日 中高生の基礎英語 in English 4月号「私のオールイングリッシュ」記事掲載
- ・2022年4月14日 中高生の基礎英語 in English 5月号「私のオールイングリッシュ」記事掲載
- ・2022年4月3日 朝日中高生新聞「中学生のディベート全国大会」英語ディベート記事
- ・2022年5月29日 埼玉新聞「市立浦和高校・中学インターアクト部英語討論会で全国優勝」英語ディベート記事
- ・2022年6月2日 朝日新聞「英語ディベートダブルV」英語ディベート記事
- ・2023年1月25日 さいたま市優秀教職員表彰者及び文部科学大臣優秀教職員表彰者による「授業の達人大公開」にてディベートの基礎となる授業発表
- ・2023年1月25日 朝日新聞「留学経験者はいないけど…英語討論全国1位」記事掲載
- ・2023年1月15日 埼玉新聞「史上初の3連覇！勝利つかんだ「鋼の論」」記事掲載
- ・2023年4月26日 さいたま市長・教育長表敬訪問
- ・2023年6月25日 埼玉県初心者1年生対象 NOVICE CUP を立ち上げ開催。

須田理事

- ・2022年8月27～28日 中高生向けの大会「Tsukukoma Schools Open 2022」（主催：筑駒語学部・共催：Tokyo Debate Academy 他）をオンライン開催

河野理事

- ・2021年7月10日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年8月4日 ECC 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年8月10日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年8月18日 ELEC 夏期教員研修 講師
- ・2021年8月26日 岩手県教員向けジャッジレクチャー 講師
- ・2021年8月27日 愛知県立常滑高等学校教員研修 講師
- ・2021年9月25日 朝日出版社 CNN ワークブック 対談
- ・2021年9月25日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年11月17日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年12月2日 愛知県立旭丘高等学校ディベートワークショップ 講師
- ・2021年12月2日 初心者・教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2021年12月10日 ECC 生徒向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2021年12月23日 神奈川県立横浜国際高等学校教員研修 講師
- ・2022年1月5日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2022年1月7日 ESUJ 教員向け英語ディベートレクチャー 講師
- ・2022年1月15日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2022年1月16日 徳島県教員向け即興英語ディベートワークショップ 講師

- ・2022年1月15日 徳島県生徒向け即興英語ディベートワークショップ 講師
- ・2022年1月29日 HPDU 愛知県大会 チーフジャッジ
- ・2022年1月30日 HPDU 茨城県大会 チーフジャッジ
- ・2022年2月1日 HPDU 鹿児島県大会 招待ジャッジ
- ・2022年2月11日 HPDU 神奈川県大会 トーナメントディレクター
- ・2022年3月6日 教員向け即興英語ディベート練習会 講師兼運営
- ・2022年3月25日 HPDU 連盟杯 運営
- ・2022年3月28日 神戸市立葺合高等学校教員研修 講師
- ・2022年3月28日 ESUJ モデルディベート 解説

その他

- ・チャンクで英単語 コラム執筆
- ・朝日出版社 CNN ワークブック 記事執筆
- ・朝日出版社 CNN ワークブック 対談記事
- ・角川出版「英語が出来ません」(刀祢館正明著) インタビュー出演
- ・高校生英語ディベート世界大会 (WSDC) 日本代表ヘッドコーチ
(*日本代表 史上初の決勝トーナメント進出)

小野チーフコーチ

- ・2022年9月25日 徳川家広氏 Youtube 出演、パラメンタリーディベートを語る
- ・2023年1月29日 HPDU 東京大会審査員
- ・2023年3/25~27 HPDU 全国大会審査員
- ・2023年8/2 ESUJ 教員向け研修レクチャー

加藤四国・九州代表

- ・2022年11月1日 インクルーシブなディベートの在り方についての研究プロジェクト参画
- ・2023年1月21日 HPDU 連盟杯福岡県大会 アドバイザー
- ・2023年5月1日 著書『即興型ディベートの教科書』重版
- ・2023年7月10日 高校生英語プレゼンテーション GEM Talks 教材監修、講師

2024 年度HPDU役員

理事長	北原隆志（渋谷教育学園渋谷中学高等学校教諭）
事務局長	古賀記洋子（日本大学第一高等学校教諭）
理事	小林良裕（豊島岡女子学園中学高等学校教諭、東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科 博士課程在籍）
	前田和（埼玉県立久喜北陽高等学校教諭）
	浜野清澄（さいたま市立浦和高等学校教諭）
	西崎真広（帝京大学中学校高等学校教諭）
	天海揚介（OBOG 代表）
	須田智之（筑波大学附属駒場中・高等学校教諭）
	大関朝美（富士見中学校高等学校教諭）
	河野周（聖光学院中学・高等学校教諭）
監事	油井直次（元公益財団法人 日本英語検定協会会長）
名誉顧問	明石 康（公益財団法人 国立京都国際会館理事長、一般社団法人 日本英語交流連盟副会長、元国連事務次長）
	沼田貞昭（一般社団法人 日本英語交流連盟会長、元駐カナダ大使）
顧問	加藤一郎（千葉大学客員教授、元全農代表理事専務）
	新庄一郎（弁護士、元検察庁検事正）
	酒井弘行（公認会計士、元KPMGジャパン日本代表、元あずさ監査法人理事長）
	下野雅承（元日本 IBM 社長）
	讃井暢子（元一般社団法人 日本経済団体連合会常務理事）
大会主顧問	岡田真樹子（一般社団法人 日本英語交流連盟常務理事、元山梨英和大学 人間文化学部人間文化学科 教授）
大会特別顧問	綾部 功（東海大学 文学部英語文化コミュニケーション学科 教授）
	中川智皓（大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授）
西日本代表	西山哲郎（静岡聖光学院中学校・高等学校校長補佐）
四国・九州代表	加藤 彰（九州大学 非常勤講師/学術研究者）
チーフコーチ	小野暢思（合同会社 Tokyo Debate Academy 代表）